

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎A／アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについての理解と実践						
授業の概要	始めに、日本語の音声学の基礎的知識を習得することを目指す。日本語の音声の仕組みを学び、アナウンスメントの基礎を通して身につけたことが、日本語での口頭表現、プレゼンテーションの技法の向上につながるようになる。発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの基礎となるニュース原稿を読んで実践に取り組み。その様子をVTR収録し、視聴して講評する形で授業を行う。						
到達目標	ニュース原稿を読む技術を理解し、実践できること						
授業計画	第1回 講義説明と発声練習 第2回 発声練習 第3回 日本語における各音節の発音 第4回 ガ行鼻濁音 第5回 母音の無声化 第6回 短文練習 第7回 アクセント 第8回 アクセント練習 第9回 ニュース原稿の読み方①(時事・政治) 第10回 ニュース②(時事・経済) 第11回 ニュース③(季節・行事) 第12回 ニュース④(季節・行事) 第13回 ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回 VTR収録 第15回 VTR視聴と講評  (受講者数によって内容が前後したり、変更することがあります。)						
授業外における学習(準備学習の内容)	普段から声を出すことを意識的に行うこと。後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出)60%。 遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と課題実技(VTR収録)がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎B／プレゼンテーションの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広義のプレゼンテーションにおける技術の理解と習得						
授業の概要	発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、発話の基礎に触れる。その後、コマーシャル、フリートークなど、場面を想定してプレゼンテーションの実践に取り組む。なおその際原稿は、自分で作るようになる。相手にいかにわかりやすく伝えることができるか、その方法を具体的に学ぶ。						
到達目標	人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、聞き手にわかりやすい話し方ができること。						
授業計画	第1回 発声練習 第2回 滑舌練習 第3回 アクセント 第4回 一番短いプレゼンテーション—CM 第5回 CM読みの実践1 第6回 CM読みの実践2（声の表情を変えて） 第7回 CM読みの実践3（評価対象） 第8回 第一印象の作り方 第9回 フリートーク 第10回 ビブリオバトルとは 第11回 ビブリオバトルの実践（仕上げ） 第12回 朗読について 第13回 原稿の作り方 第14回 朗読の実践 第15回 読み聞かせ  （受講者数によって内容が前後することがあります。）						
授業外における学習（準備学習の内容）	◎ビブリオバトル—5分間で本を紹介する。紹介したい本を選んで、紹介ポイントを探しておく。 ◎朗読—題材は自由。時間は2分程度。コピー、手書き等で原稿を作り、読むときの工夫を書きこんでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート（授業の中で提出）60%。 遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と課題実技（CM読み・朗読）がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の養成						
授業の概要	新聞のコラムを読み、要旨を的確に把握できるよう、毎回文章を読み、まとめます。 また、さまざまなタイプの文章を書くうえで必要な基本ルールを学び、どのような書式を用いれば分かりやすく効果的に伝わるかということを考えながら、事実や主張を相手に誤解なく伝えられるように、時にペアワークやグループワークも取り入れながら、毎回何らかの文章を書きます。						
到達目標	1. 日本語の文の構造、文体、漢字語彙、表現効果についての基本知識を身につけ、適切に運用する。 2. 敬語を正しく用いて、社会に出てからも通用する実用的な文書が書けるようになる。 3. 新聞などの資料を適切に用いて、レポートなどアカデミックな文章を大学生にふさわしい内容で書けるようになる。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 メール <span>の</span> 書き方・敬語 1 第3回 手紙 <span>の</span> 書き方・敬語 2 第4回 はがき <span>の</span> 書き方・敬語 3 第5回 論証文 1 構成 第6回 論証文 2 引用 第7回 説明文 1 描写 第8回 説明文 2 報告 第9回 説明文 3 紹介 第10回 振り返り・テスト 第11回 グループワーク 1 作成 第12回 グループワーク 2 発表 第13回 レポート <span>の</span> 作成 1 テーマ 第14回 レポート <span>の</span> 作成 2 構成 第15回 レポート <span>の</span> 推敲・修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな形式の文章に慣れるため、また、見本となる文章を自分の中に蓄積するため、日ごろから新聞や小説その他の書籍をたくさん読んでください。						
授業方法	毎回まず新聞のコラム等のテキストを読み、漢字の読み書きや文章要約を行います。 その後、演習形式で、毎回何らかの文章を書きます。ペアワークやグループワークを取り入れることもあります。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストおよび最終レポートの総合評価とします。 テストおよび最終レポート50% 授業内課題（宿題含む）30%・新聞テキスト10%・授業参加態度10% ※3回を超えて欠席した場合、最終評価の対象としません。 ※テストを欠席した場合および最終レポートを提出しなかった場合も、最終評価の対象としません。 (ただし、正式な理由があってテストを欠席した場合は、必ず教務課に届け出ること。 教務課からの届けをもって、再テストまたは別の課題等を指示します。)						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法B						
担当教員	岡田 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の養成						
授業の概要	新聞のコラムを読み、要旨を的確に把握できるよう、毎回文章を読み、まとめます。 また、さまざまなタイプの文章を書くうえで必要な基本ルールを学び、どのような書式を用いれば分かりやすく効果的に伝わるかということを考えながら、事実や主張を相手に誤解なく伝えられるように、時にペアワークやグループワークも取り入れながら、毎回何らかの文章を書きます。						
到達目標	1. 日本語の文の構造、文体、漢字語彙、表現効果についての基本知識を身につけ、適切に運用する。 2. 敬語を正しく用いて、社会に出てからも通用する文書が書けるようになる。 3. 新聞などの資料を適切に用いて、レポートなどアカデミックな文章を大学生にふさわしい内容で書けるようになる。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 就活に必要な文章1 自己分析 第3回 就活に必要な文章2 メール・手紙 第4回 社会で役立つ文章1 お知らせ 第5回 社会で役立つ文章2 報告書 第6回 社会で役立つ文章3 議事録 第7回 さまざまな文章1 社説・コラムの比較 第8回 さまざまな文章2 新聞の見出し 第9回 さまざまな文章3 新聞の報道記事 第10回 論説文1 構成 第11回 論説文2 引用 第12回 テスト 第13回 簡易ディベート 第14回 レポートの作成1 構成 第15回 レポートの作成・推敲、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな形式の文章に慣れるため、また、見本となる文章を自分の中に蓄積するため、日ごろから新聞や小説その他の書籍をたくさん読んでください。						
授業方法	毎回まず新聞のコラム等のテキストを読み、漢字の読み書きや文章要約を行います。 その後、演習形式で、毎回何らかの文章を書きます。ペアワークやグループワークを取り入れることもあります。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストおよび最終レポートの総合評価とします。 テストおよび最終レポート50% 授業内課題（宿題含む）30%・新聞テキスト10%・授業参加態度10% ※3回を超えて欠席した場合、最終評価の対象としません。 ※テストを欠席した場合および最終レポートを提出しなかった場合も、最終評価の対象としません。 （ただし、正式な理由があってテストを欠席した場合は、必ず教務課に届け出ること。 教務課からの届けをもって、再テストまたは別の課題等を指示します。）						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語および諸外国語の音聲、音韻、文字、表記。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	音と文字の関係を掴むことができるやうに成る。 音聲と音韻の差異を掴むことができるやうに成る。 日本語の文字・表記の歴史に関する知識を得る。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 音聲と音素 03: 国際音聲字母 (IPA) と五十音圖 04: モーラ、音節、アクセント、語聲調 05: 文字の種類 06: 日本への漢字傳來 07: 音假名による音節表記 08: 黎明期の和文 09: 音訓の交用 10: 七世紀後半における散文の和文表記 11: 歌の文字化 12: 万葉假名文から假名文へ 12: 縦書きと横書き 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 試験: 60% 出席点は無い。						
教科書	沖森 卓也 (2003) 『日本語の誕生—古代の文学と表記』、吉川弘文館						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 樺島 忠夫 (1979) 『日本の文字—表記体系を考える—』 (岩波新書・黄版75)、岩波書店 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店 小泉 保 (1996) 『音声学入門』、大学書林 小松 茂美 (1968) 『かな—その成立と変遷—』 (岩波新書・青版679)、岩波書店 服部 四郎 (1951) 『音声学』 (岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 屋名池 誠 (2003) 『横書き登場—日本語表記の近代—』 (岩波新書・新赤版863)、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	海外日本語教育実習						
担当教員	池谷 知子						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	海外日本語教育実習						
授業の概要	<p>この授業は、実際に、海外の協定大学の日本語学科で日本語教育の教壇実習を行う授業である。日本語教育は実際に教えるという体験が非常に重要である。まず、実習内容を決め、教案を書き、それにそったアクティビティを準備し、練習を重ねて、実際の教壇に立つ。この経験を通して、クラスコントロールなど現場でしか学べないことを学ぶ。</p> <p>この授業は8回の学内での授業と1~2週間の海外の教育実習から構成される。</p> <p>人数制限や実習費用がかかるため、必ず1回目の授業に出席することを条件とする。</p>						
到達目標	<p>① 教えるべき文型が理解できる。</p> <p>② 対象者のレベルにあった教案を作ることができる。</p> <p>③ 実際に日本語の授業を行うことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 実習指導1・教材研究 色々な教え方</p> <p>第3回 実習指導2・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習</p> <p>第4回 実習指導3・教案指導の書き方</p> <p>第5回 実習指導4・教案指導を書く</p> <p>第6回 実践練習</p> <p>海外教育実習</p> <p>第7回 フィードバック</p> <p>第8回 まとめと振り返り</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の為の教材作を積極的に行うこと。						
授業方法	講義形式＋教育実習						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 教壇実習40% 教案・実習レポート10%						
教科書							
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ／華道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の伝統的文化としての、いけ花を考える						
授業の概要	<p>「いけ花」(華道)は現在につづく日本の芸道である。その起源は、仏に花を供える「供花」にあると言われる。平安時代に既に花を立てた例も確認されるが、「いけ花」の成立は室町後期のことで、後土御門天皇、足利義政、池坊専応・専栄・初代専好の時代にその様式が確立する。安土桃山文化の中に花開いた「いけ花」の美は、江戸時代にさらに洗練され、池坊以外の多くの流派をも生み出し、様式も確立する。近代には海外にも波及し、その文化は現在に継承されることとなる。この「いけ花」の歴史を、花の伝書や、いけ花展・いけ花の資料展の見学により、その実際を確認しながら学ぶ。</p>						
到達目標	華道の歴史と理論を、基本的な実技をまじえて学ぶことからにより、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、国内はもとより海外へ日本文化の紹介を、おこなうことができる。						
授業計画	<p>第一回 講義の概要説明 「いけ花」(華道)について  第二回 いけ花史 古代から江戸時代まで  第三回 いけ花史 明治時代から現代まで  第四回 実習(1) いけ花実作「盛花」  第五回 実習(2) いけ花実作「投入花」  第六回 実習(3) いけ花実作「自由花」  第七回 花の伝書1 たて花・立花  第八回 花の伝書2 生花  第九回 いけ花の様式と思想  第十回 いけ花展、いけ花資料の見学(課外講義)  第十一回 「盛花」以後のいけ花  第十二回 女子教育といけ花  第十三回 キリスト教主義女学校といけ花  第十四回 植民地といけ花  第十五回 まとめ 質疑応答</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	講義で興味を持ったことに関して、図書館で調べる。各自、華道展に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。						
授業方法	講義、実習、課外見学						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点(小テスト・実習などを含む)50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4 『一八世紀日本の文化状況と国際環境』笠谷和比古編 思文閣出版 2011年 ISBN978-4-7842-1580-5 『花信のこころ 花と禪』珠寶 昭和堂 2009年 ISBN978-4-8122-0938-7 『植民地期朝鮮の教育資料』I・II 小林善帆編 国際日本文化研究センター(非売品・図書館所蔵)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国三千年の歴史と、それを受容した先人の工夫を理解する。						
授業の概要	中国とその文学の歴史を把握するとともに、それを受容するための工夫、すなわち中国語を日本語の体系に組み入れた訓読法の諸相を学ぶ。中国文学の流れの大枠を捉えた上で、実際に文献を読む実践編に入り、中国文学の本質に迫ることができるようにする。						
到達目標	漢文を通じて中国文化を正當に評価できる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：中国三千年の歴史 第3回：神話の時代 第4回：諸子百家の時代 第5回：諸子百家の思想 第6回：諸子百家の文学 第7回：漢代の散文 第8回：漢代の韻文 第9回：唐代の散文 第10回：唐代の韻文 第11回：唐詩選の受容 第12回：蒙求の時代 第13回：四大奇書 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	漢文学び方の基礎（改訂版） 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN：9784838606153						
参考書	授業中に紹介する						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国文化と日本文化の本当の理解						
授業の概要	すでに身に付けた漢文訓読の基礎を確実なものとし、その土台に基づいて「蒙求」「史記」「論語」などの文献を、実際に読む。さまざまなジャンルの作品を数多く読むことで、理屈のみではなく、感覚として、先人が苦勞して編み出してきた漢文訓読の偉大さを実感する。						
到達目標	「蒙求」などの講読を通して、中国文化の価値や日本文化への影響が理解できる。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：漢文の作品についての概観 第3回：「蒙求」の講読 導入 第4回：「蒙求」の講読 展開 第5回：「蒙求」の講読 応用 第6回：「蒙求」の講読 まとめ 第7回：「史記」の講読 導入 第8回：「史記」の講読 展開 第9回：「史記」の講読 応用 第10回：「論語」の講読 導入 第11回：「論語」の講読 展開 第12回：「論語」の講読 応用 第13回：漢文の日本文学への影響 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた愛						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの類を含む)を中心に、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しむことができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 SFとは何か 第3回 タイムトラベル 第4回 タイムマシン 第5回 タイムパラドックス 第6回 過去と未来 第7回 梶尾真治の世界 第8回 梶原真治の作品 第9回 梶原真治の映画 第10回 SF映画 第11回 恋愛小説の限界 第12回 ビューアな愛の物語 第13回 『つばき、時跳び』のこと 第14回 『つばき、時跳び』の結末と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観ること。						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%						
教科書	プリントで行う。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	織田作之助研究						
授業の概要	織田作之助の作品のうち、特に『夫婦善哉』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。						
到達目標	影印（写真版）を活用し、執筆の現場を追体験することで、『夫婦善哉』正統の魅力を再発見できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 織田作之助のこと 第3回 大阪の文学 第4回 ドラマ化の問題 第5回 映画化の問題 第6回 夫婦善哉の正編 第7回 正編 発展 第8回 正編 展開 第9回 続編の発見 第10回 大分の生活 第11回 続編 発展 第12回 続編 展開 第13回 夫婦善哉の結末 第14回 とりあえずのまとめと筆記試験 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	織田作之助『夫婦善哉 完全版』雄松堂書店 ISBN: 978-4-8419-0467-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	行書法／書道実技（行書）						
担当教員	西山 恵里香						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	行書の特徴を学習し、それを基に行書の用筆法を習得する。 行書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した行書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。 行書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス</li> <li>硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。）</li> <li>2、王羲之『蘭亭序』について①～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 四文字臨書</li> <li>3、王羲之『蘭亭序』について②～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書</li> <li>4、王羲之『蘭亭序』について③～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書</li> <li>5、王羲之『蘭亭序』について④～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書</li> <li>6、王羲之『蘭亭序』について⑤～半切作品のまとめ方～</li> <li>7、王羲之『蘭亭序』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～</li> <li>8、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ①～歴史的背景の理解～</li> <li>9、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ②～四文字臨書～</li> <li>10、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ③～六文字臨書～</li> <li>11、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ④～半切～</li> <li>12、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ⑤～半切 仕上げ～</li> <li>13、創作① 創作について</li> <li>14、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等）</li> <li>15、創作③ 半切作品の清書</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、作品50%、レポート・小テスト30%						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について</li> <li>2、楷書体について</li> <li>3、行書体について</li> <li>4、楷書体と行書体を書き分ける</li> <li>5、平仮名と片仮名について</li> <li>6、縦書きと横書きについて</li> <li>7、はがき、手紙について</li> <li>8、掲示文の書き方について</li> <li>9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト</li> <li>10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く</li> <li>11、筆ペンによる実用書—熨斗書について</li> <li>12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く</li> <li>13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿）</li> <li>14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書）</li> <li>15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技と理論の予習と復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題30% テスト50%						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について</li> <li>2、楷書体について</li> <li>3、行書体について</li> <li>4、楷書体と行書体を書き分ける</li> <li>5、平仮名と片仮名について</li> <li>6、縦書きと横書きについて</li> <li>7、はがき、手紙について</li> <li>8、掲示文の書き方について</li> <li>9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト</li> <li>10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く</li> <li>11、筆ペンによる実用書—熨斗書について</li> <li>12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く</li> <li>13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿）</li> <li>14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書）</li> <li>15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技と理論の予習と復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題30% テスト50%						
教科書	『硬筆書写検定・2級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA						
担当教員	三木 麻子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌の享受のあり方を学ぶ。						
授業の概要	王朝人の生活のなかにあった和歌は、折にふれ人々に楽しまれ、次の創作への原動力ともなるものであった。人々の前に披露され、鑑賞される和歌のあり方の諸相を学ぶ。						
到達目標	和歌について理解を深めるとともに、人々が和歌をどのように詠み、享受したのか、そのさまざまな読まれ方を理解し、王朝人と同じように和歌の世界を楽しむことができる。						
授業計画	第1回 古典和歌とは 第2回 歌集の形態－勅撰集と私家集 第3回 私家集の作られ方－『元良親王集』 第4回 音楽とともにある和歌－東遊び・催馬楽 第5回 絵とともにある和歌－屏風歌・歌仙絵 第6回 『古今和歌集』の屏風歌 第7回 伊勢・貴之の屏風歌 第8回 競い合う和歌－歌合 第9回 初期歌合の和歌 第10回 新古今時代の歌合 第11回 歌物語の和歌－歌は徳 第12回 散文の中に生きる和歌 第13回 定数歌の世界 第14回 『百人一首』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付するプリントの作品例が理解できるよう、予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（70%）、小レポート（20%）、平常点（10%）						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB						
担当教員	大坪 亮介						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『平家物語』をくずし字で読む						
授業の概要	現在、私たちの多くは古典作品を教科書や注釈書などで読んでいる。その本文は、作品本来の姿である写本・版本から多くの加工が施されたものである。例えば、くずし字で書かれた本文が現在通行の字体に改められていたり、句読点が補われていたりするのである。本授業ではまず、古典作品がいかなる加工を経て現代の一般読者の目に触れるのか、その過程を学ぶ。その上で、『平家物語』百二十句本のうち平家滅亡の後日譚を語る第百十九句・第百二十句を影印本（写本・版本を写真撮影し印刷したもの）で読解していく。						
到達目標	基礎的なくずし字が読解できる。 諸文献・データベース類を適切に利用し、古典テキストを注釈的に読解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス① 古典作品が私たちの目に触れるまで 第2回 ガイダンス② 演習の進め方 第3回 百二十句本『平家物語』精読① 大原御幸 第4回 百二十句本『平家物語』精読② 建礼門院の住まい 第5回 百二十句本『平家物語』精読③ 法皇との対面 第6回 百二十句本『平家物語』精読④ 建礼門院の六道語り 第7回 百二十句本『平家物語』精読⑤ 建礼門院の夢 第8回 百二十句本『平家物語』精読⑥ 法皇の還御 第9回 百二十句本『平家物語』精読⑦ 建礼門院の死 第10回 百二十句本『平家物語』精読⑧ 六代出家 第11回 百二十句本『平家物語』精読⑨ 伊賀大夫の死 第12回 百二十句本『平家物語』精読⑩ 丹後侍従の死 第13回 百二十句本『平家物語』精読⑪ 頼朝の死 第14回 百二十句本『平家物語』精読⑫ 六代処刑 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表者は、担当範囲の本文の意味や用語の説明を記したレジュメを作成しておく必要がある。レジュメの作成にあたっては、文献やデータベース類を適切に扱い、十分な時間をかけることが求められる。発表者以外の受講生も、授業前には必ず本文を下読みしてくる。また、授業後はその日の内容を整理しておくこと。						
授業方法	講義形式でのガイダンスと受講生の発表による演習形式。演習の進め方の詳細については、受講生の数により決める。						
評価基準と評価方法	平常点（発表内容および普段の授業参加等）50%、期末試験50%。						
教科書	プリント配布。						
参考書	・くずし字の読解に関するもの……『実用変体がな』（かな研究会編、新典社、1988年）、『改訂増補仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社、1966年）くずし字学習支援アプリ「kula」 ・『平家物語』に関するもの……『平家物語を読む』（川合康編、吉川弘文館、2009年）、『平家物語大事典』大津雄一、日下力、佐伯真一、櫻井陽子編、東京堂出版、2010年）。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の講読						
授業の概要	『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした平安時代の歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本講義では、『伊勢物語』の本文を読み味わいながら、物語がどのようにして作られ、どのように享受されてきたかを考察する。						
到達目標	古典文学史における『伊勢物語』の位置を説明できるようになる。 『伊勢物語』の口語訳がだいたいできるようになる。 古典語彙、文語文法などを理解し、古文読解の能力を高める。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『伊勢物語』の概説講義 第2回 『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第3回 『伊勢物語』第1段についての講義 第4回 『伊勢物語』第4段についての講読 第5回 『伊勢物語』第5段についての講読 第6回 『伊勢物語』第6段についての講読 第7回 『伊勢物語』第9段前半についての講読 第8回 『伊勢物語』第9段後半についての講読 第9回 『伊勢物語』第23段についての講読 第10回 『伊勢物語』第23段についての講読 第11回 『伊勢物語』第41段についての講読 第12回 『伊勢物語』第69段についての講読 第13回 『伊勢物語』第87段についての講読 第14回 まとめと期末テスト 第15回 『伊勢物語』の生成と享受についてのまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	文語文法などの基礎的な知識を事前に学習しておく。 『伊勢物語』の講読を通して、古文読解の力を養うよう復習する。						
授業方法	講義と演習(受講者による担当発表)						
評価基準と評価方法	試験(期末試験と小テスト)(60%)、担当発表(30%)、平常点(10%)によって評価する。						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注(和泉書院)						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一(和泉書院) 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助(小学館) 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔(岩波書店) 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫(右文書院)						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講讀。						
授業の概要	各受講者が演習発表で取り上げる古典作品をひとつ選んだのち、まづは、古典に関する文獻學的知識を學ぶ。次いで、影印本の翻刻、古典日本語の直譯、難解語句に對する注釋を行なひ、演習発表資料にまとめ上げる。また、話す力と聞く力の向上を圖って、発表擔當者と受講生の質疑應答も行なふ。						
到達目標	古典に関する文獻學的知識を身に附ける。 影印本の翻刻を通して、古い時代の文字を読むことができるやうに成る。 古典日本語を言語學的に分析し、古典が讀解できるやうに成る。 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 発表擔當者と受講生の質疑應答を通して、話す力と聞く力を見に附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計畫、到達目標の説明。 02: 現行の古典テキストの成り立ちと影印本の文字・表記について。 03: 古典日本語の直譯とその難しさについて。 04: 影印本の翻刻。 05: 古典作品の紹介と講讀 (1): 書誌情報の整理について 06: 古典作品の紹介と講讀 (2): 翻刻の基本方針について 07: 古典作品の紹介と講讀 (3): 崩し字をどう起こすかについて 08: 古典作品の紹介と講讀 (4): 漢字の崩し字について 09: 前半のまとめと理解度確認試験 10: 古典作品の紹介と講讀 (5): 古典日本語の名詞について 11: 古典作品の紹介と講讀 (6): 古典日本語の動詞について 12: 古典作品の紹介と講讀 (7): 古典日本語の統語について 13: 古典作品の紹介と講讀 (8): 直譯と意譯の違いについて 14: 古典作品の紹介と講讀 (9): 原文をどの程度直譯するかについて 15: 後半のまとめと理解度確認試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	學術発表: 40% 質疑應答: 20% 試験: 40%  特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書	飯倉 洋一(編)『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習アプリKuLAの使い方』、笠間書院						
参考書	児玉 幸多(編)(1970) [2013] 『くずし字解説辞典 普及版』、東京堂出版 児玉 幸多(編)(1981) [2011] 『くずし字用例辞典 普及版』、東京堂出版 小松 茂美(1968) 『かな—その成立と変遷—』(岩波新書・青版679)、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	大坪 亮介						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『信長記』講読						
授業の概要	数ある歴史上の人物の中でも、織田信長は最も知名度の高い人物の一人であろう。特に歴史が関心がなくとも、ドラマや映画、マンガやゲームなどを通じて、信長の人物像や事績についての知識を持っている人は多いのではないだろうか。本授業では、私たちが抱く信長のイメージの形成に大きな影響を与えた小瀬甫庵『信長記』を精読していく。中でも、信長が劣勢を覆し今川義元を破った桶狭間の戦いと、鉄砲の威力を天下に知らしめたとされる長篠の戦いを描く場面を取り上げ、本文を注釈的に読み解くとともに、『信長記』が後代の歴史認識に与えた影響についても検討していきたい。						
到達目標	諸文献・データベース類を適切に利用し、古典テキストを注釈的に読解できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス① 『信長記』とその時代 第2回 ガイダンス② 講読の進め方 第3回 『信長記』精読① 今川義元の野望 第4回 『信長記』精読② 信長の対応 第5回 『信長記』精読③ 人間五十年の舞 第6回 『信長記』精読④ 信長軍を守る神 第7回 『信長記』精読⑤ 信長軍の作戦 第8回 『信長記』精読⑥ 桶狭間の戦い 第9回 『信長記』精読⑦ 武田勝頼軍の進撃 第10回 『信長記』精読⑧ 長篠城籠城戦 第11回 『信長記』精読⑨ 信長軍の救援 第12回 『信長記』精読⑩ 新兵器鉄砲の威力 第13回 『信長記』精読⑪ 信長軍の勝利 第14回 『信長記』精読⑫ 信長の帰還 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表者は、担当範囲の本文の意味や用語の説明を記したレジュメを作成しておく必要がある。レジュメの作成にあたっては、文献やデータベース類を適切に扱い、十分な時間をかけることが求められる。発表者以外の受講生も、授業前には必ず本文を下読みしておくこと。また、授業後はその日の内容を整理しておくこと。						
授業方法	講義形式でのガイダンスと、受講生の発表による演習形式。演習の進め方の詳細については、受講生の数により決める。						
評価基準と評価方法	平常点（発表内容および普段の授業参加等）50%、期末試験50%。						
教科書	プリント配布。						
参考書	『信長公記を読む』（堀新編、吉川弘文館、2009年）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道文化を学ぶ／茶道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の伝統的な文化としての茶の湯						
授業の概要	茶の湯をめぐる日本の文化は、日本文化史において独自の発展を遂げ、今日、日本の伝統文化を代表するもの一つとなっている。中国唐代の喫茶文化の受容から急速に貴族たちの間に広まった平安時代、禪の実践の中で精神性を深めてゆくいっぽう、権力構造の中に取り込まれるようになっていった中世。利休により至高の精神性を獲得するにいたった近世、ジェンダー、アイデンティティという視点から読み解くことができる近現代、というように茶の湯をめぐる文化は、それぞれの時代精神や周辺さまざまな文化事象と密接な関わりを見せながら、展開してきた。本講義では、日本における茶の湯文化を歴史的に概観するとともに、茶の湯を学び、実際に茶会に参加することから、茶道文化を立体的に学ぶ。						
到達目標	茶道（茶の湯）の歴史と理論を基本的な実技を交え学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、海外に向けて、伝統的日本文化の紹介をおこなうことができる。						
授業計画	第一回 講義 概要の説明 茶の湯とは 第二回 茶の湯と道具、点前 第三回 茶の湯と建築空間、庭園 第四回 茶の湯と懐石料理・和菓子 第五回 実習 和菓子の作り方 第六回 実習 茶席の作法1 第七回 実習 茶席の作法2 第八回 実習 茶席の作法3 第九回 茶の湯の歴史1 千利休まで 第十回 茶の湯の歴史2 千利休以後、近世 第十一回 茶の湯の歴史3 近代・現代 第十二回 茶の湯と諸文化 第十三回 茶の湯とジェンダー 第十四回 茶の湯と植民地 第十五回 まとめ 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことを図書館で調べる。茶の湯関係の美術館に行く。お茶会に参加してみる。						
授業方法	講義、実習						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テスト、実習参加を含む）50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4 『日本の近代化とプロテスタンティズム』上村敏文・笠谷和比古編 教文館 2013年 ISBN978-4-7642-7363-4 『植民地期朝鮮の教育資料』I II 小林善帆編 2015、2016年 国際日本文化研究センター（非売品・図書館所蔵）						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。						
授業計画	<p>第1回 方言を調査すること  第2回 先行調査・研究の検討① 方言概説—音声・音韻—  第3回 先行調査・研究の検討② 方言概説—アクセント—  第4回 先行調査・研究の検討③ 方言概説—語彙・文法・表現法—  第5回 先行調査・研究の検討④ 前回の調査結果の検討—アクセント—  第6回 先行調査・研究の検討⑤ 前回の調査結果の検討—活用—  第7回 先行調査・研究の検討⑥ 前回の調査結果の検討—接続助詞、終助詞—  第8回 調査の準備・調査票の作成① 調査項目の設定  第9回 調査の準備・調査票の作成② 質問方法の選定  第10回 調査の準備・調査票の作成③ 質問内容の選定  第11回 模擬調査  第12回 調査票の改良  第13回 調査票の説明（前半グループ）  第14回 調査票の説明（後半グループ）  第15回 夏休み調査に向けて</p> <p>※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に調査票の作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。						
授業方法	講義、及び演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、発表20%、レポート（調査票含む）40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	調査した結果から、データの整理と分析を経て、発表できるようになる。						
授業計画	※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の管理方法 第3回 表計算ソフトでの集計方法 第4回 データ入力 第5回 入力データの見直し 第6回 調査結果の分析方法 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 第8回 データ分析 第9回 データ分析（前回の続き） 第10回 発表内容と方法の検討 第11回 中間発表 第12回 発表内容と方法の見直し 第13回 最終発表（前半グループ） 第14回 最終発表（後半グループ） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	結果発表に際しては準備が必要となる。念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、中間発表20%、最終発表・レポート40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得する。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。						
到達目標	書を総合的に理解できる。 書について自分自身の言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について</li> <li>2) 書とは何か（書写と書道、作品について）</li> <li>3) 書道史について（中国と日本の書の歴史）</li> <li>4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について</li> <li>5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む</li> <li>6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について</li> <li>7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前）</li> <li>8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後）</li> <li>9) 書の美について（書の美学、美的価値）</li> <li>10) 作品の鑑賞と制作について</li> <li>11) 文房四宝について（ゲストスピーカーによる講義）</li> <li>12) 表具・作品の装丁について</li> <li>13) 書と教育について</li> <li>14) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸）</li> <li>15) まとめ、質疑応答、確認テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20% テスト40% レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—基礎編〉						
授業の概要	仮名は、中国から漢字を受容し、日本独自の美意識のもと展開された。 仮名の変遷を理解し、主に平安時代の仮名について学習する。 単体から連綿、仮名の書き方の基本を学びながら、日本の美について考える。						
到達目標	仮名の成立について理解し、説明することができる。 仮名の書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、仮名の変遷と仮名の書について</li> <li>2) 仮名の基本練習—単体で書く 1…仮名の字源について、仮名の用筆</li> <li>3) 2…「いろは」練習</li> <li>4) 3…「いろは」清書</li> <li>5) 仮名の基本練習—連綿で書く 1…連綿の種類について、連綿の練習</li> <li>6) 2…連綿の清書</li> <li>7) 仮名の基本練習—変体仮名を書く 1…変体仮名の字源について、変体仮名の練習</li> <li>8) 2…変体仮名の練習と清書</li> <li>9) 仮名の古典作品（古筆）について、古筆の臨書—「高野切古今和歌集」練習</li> <li>10) 古筆の臨書—「高野切古今和歌集」清書</li> <li>11) 古筆の臨書—「三色紙」練習</li> <li>12) 古筆の臨書—「三色紙」清書</li> <li>13) 仮名作品の創作①—構図と墨量を考える</li> <li>14) 仮名作品の創作②—料紙に清書</li> <li>15) 仮名作品の創作③—作品に合う印の制作と押印</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% 課題・小テスト30% 平常点20%						
教科書	手本やプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	俳句、和歌などの散らし書きを学び、創作につなぐことができる。色紙、短冊、扇面などの様々な書式を知り、創作することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古筆の鑑賞—学ぶ古筆を選ぶ</li> <li>2) 古筆の臨書—練習</li> <li>3) 古筆の臨書—清書</li> <li>4) 短冊に書く①—集字について</li> <li>5) 短冊に書く②—短冊の書式について</li> <li>6) 短冊に書く③—墨量と濃淡について</li> <li>7) 色紙に書く①—散らし書きについて（構図を考える）</li> <li>8) 色紙に書く②—散らし書きについて（墨量を考える）</li> <li>9) 扇面に書く①—扇面と散らし書きについて（構図を考える）</li> <li>10) 扇面に書く②—扇面と散らし書きについて（墨量を考える）</li> <li>11) 中字仮名を書く①（構図を考える）</li> <li>12) 中字仮名を書く②（墨量を考える）</li> <li>13) 中字仮名を書く③（清書）、大字仮名を書く①（構図を考える）</li> <li>14) 大字仮名を書く②（墨量を考える）</li> <li>15) 大字仮名を書く③（清書）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% 課題・小発表30% 平常点20%						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目																																				
科目名	書道実技（作品制作）																																				
担当教員	丸山果織・真鍋昌生・石井美和子																																				
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	1.0																														
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。																																				
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切にすることは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。また、書と関わりの大きい水墨画や、書を引き立てる彩色についても学ぶ。さらに、作品にふさわしい印を制作する。																																				
到達目標	自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にして制作を進めることができる。																																				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1) 作品制作とは何か</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>3) 作品制作A（集字、草稿）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>4) 作品制作A（助言、指導）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>5) 作品A発表、助言、指導</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）</td> <td>【真鍋】</td> </tr> <tr> <td>7) 書作品と印②（押印、補刀）</td> <td>【真鍋】</td> </tr> <tr> <td>8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）</td> <td>【石井】</td> </tr> <tr> <td>9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）</td> <td>【石井】</td> </tr> <tr> <td>10) 作品制作B発表、助言・指導</td> <td>【石井】</td> </tr> <tr> <td>11) 作品制作C（集字・草稿）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>12) 作品制作C（助言・指導）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>13) 作品制作C（展開）</td> <td>【丸山】</td> </tr> <tr> <td>14) 作品制作C（印の制作）</td> <td>【真鍋】</td> </tr> <tr> <td>15) 作品C発表、助言、指導、まとめ</td> <td>【丸山】</td> </tr> </table>							1) 作品制作とは何か	【丸山】	2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）	【丸山】	3) 作品制作A（集字、草稿）	【丸山】	4) 作品制作A（助言、指導）	【丸山】	5) 作品A発表、助言、指導	【丸山】	6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）	【真鍋】	7) 書作品と印②（押印、補刀）	【真鍋】	8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）	【石井】	9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）	【石井】	10) 作品制作B発表、助言・指導	【石井】	11) 作品制作C（集字・草稿）	【丸山】	12) 作品制作C（助言・指導）	【丸山】	13) 作品制作C（展開）	【丸山】	14) 作品制作C（印の制作）	【真鍋】	15) 作品C発表、助言、指導、まとめ	【丸山】
1) 作品制作とは何か	【丸山】																																				
2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）	【丸山】																																				
3) 作品制作A（集字、草稿）	【丸山】																																				
4) 作品制作A（助言、指導）	【丸山】																																				
5) 作品A発表、助言、指導	【丸山】																																				
6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）	【真鍋】																																				
7) 書作品と印②（押印、補刀）	【真鍋】																																				
8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）	【石井】																																				
9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）	【石井】																																				
10) 作品制作B発表、助言・指導	【石井】																																				
11) 作品制作C（集字・草稿）	【丸山】																																				
12) 作品制作C（助言・指導）	【丸山】																																				
13) 作品制作C（展開）	【丸山】																																				
14) 作品制作C（印の制作）	【真鍋】																																				
15) 作品C発表、助言、指導、まとめ	【丸山】																																				
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも積極的に取り組むことを望む。紹介する書道展など積極的に鑑賞へ行くことを望む。																																				
授業方法	実技、指導解説																																				
評価基準と評価方法	平常点30% 制作ノート20% 作品50%																																				
教科書	適宜プリントを配布する。																																				
参考書																																					

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	西山 恵里香						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	草書の基本用筆を理解・習得した上で、草書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	草書の特徴を学習し、それを基に草書の用筆法を習得する。 草書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した草書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	草書の基本的な知識と技法を習得する。 草書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による草書の基礎を習得する（草書の用筆法を習得し、草書の特徴を理解する。） 2、『書譜』について①～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ 四文字臨書 3、『書譜』について②～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、『書譜』について③～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、『書譜』について④～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、『書譜』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、『書譜』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、『十七帖』について①～王羲之の草書を学ぶ～ 半紙臨書 9、『十七帖』について②～王羲之の草書を学ぶ～ 半切臨書 10、『中秋帖』について①～全紙作品のまとめ方～ 11、『中秋帖』について②～全紙作品のまとめ方 仕上げ～ 12、創作① 創作について 13、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 14、創作③ 創作（草稿） 15、創作④ 創作（清書） 仕上げ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、作品50%、レポート・小テスト30%						
教科書	書譜（中国法書選No. 38）孫過庭 二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について</li> <li>2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習</li> <li>3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書</li> <li>4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習</li> <li>5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習</li> <li>6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習</li> <li>7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書</li> <li>8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習</li> <li>9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書</li> <li>10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習</li> <li>11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習</li> <li>12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習</li> <li>13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より）</li> <li>14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より）</li> <li>15) 楷書創作、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。 楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について</li> <li>2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習</li> <li>3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書</li> <li>4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習</li> <li>5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習</li> <li>6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習</li> <li>7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書</li> <li>8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習</li> <li>9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書</li> <li>10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習</li> <li>11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習</li> <li>12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習</li> <li>13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より）</li> <li>14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より）</li> <li>15) 楷書創作、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	青木 稔弥						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本近代の文化、文学の諸問題						
授業の概要	日本近代の文化、文学について、大学生生活の総決算としての卒業論文を執筆する手助けをする。卒業論文のテーマを教員の方から指示することはしないので、各自の関心、問題意識に応じて、それにふさわしい研究方法とその研究論文のありようを探究してもらうことになる。その補助として、適宜、最新の評論、研究論文の数々を教示することになるだろう。本当の意味での素晴らしい研究をなすためには、所謂「文学的常識」にまどわされることのない柔軟な発想と、細部に神経が行き届いた、総合的な面を忘れない物の見方が必要なことは言うまでもない。関連の様々な研究論文を実際に読み解くことを通して、本当の意味での学力を身につけ、立派な卒業論文を完成してもらいたい。						
到達目標	立派な卒業論文が完成できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文テーマの模索 1 第3回 論文テーマの模索 2 第4回 論文テーマの模索 3 第5回 論文テーマの模索 4 第6回 論文テーマの模索 5 第7回 論文テーマの模索 6 第8回 複数の論文テーマ選定 1 第9回 複数の論文テーマ選定 2 第10回 資料収集 1 第11回 資料収集 2 第12回 資料収集 3 第13回 資料収集 4 第14回 夏休みに向けて 1 第15回 夏休みに向けて 2 第16回 論文読み込み 1 第17回 論文読み込み 2 第18回 論文読み込み 3 第19回 論文テーマ決定 第20回 報告会 1 第21回 報告会 2 第22回 報告会 3 第23回 報告会 4 第24回 報告会 5 第25回 報告会 6 第26回 報告会 7 第27回 報告会 8 第28回 反省会 第29回 卒論試問 1 第30回 卒論試問 2						
授業外における学習(準備学習の内容)	幅広い知見を得るべく努力すること						
授業方法	主として個人指導						
評価基準と評価方法	卒業論文90%、卒論試問10%						
教科書	適宜、個別に、必要な本を指示。						

参考書	適宜、個別に、必要な本を指示。
-----	-----------------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	池谷 知子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	<p>日本語教育に関係するテーマで卒業論文を書くことを目指します。「敬語について」「子供の言語習得について」のような漠然としたテーマはできるだけ早い段階で興味の焦点を絞っておくことが大切です。まず、採取した用例をどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くための技法を身につけながら、各自の卒業論文のテーマについて発表を行います。個別の指導はそれぞれ時間をとって行います。</p> <p>&lt;日本語教育に関係するテーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育教材研究</li> <li>・日本語の文法や語彙についての分析</li> <li>・日本語の誤用分析</li> <li>・話し言葉の機能分析（敬語・謝罪・褒めetc）</li> <li>・非言語行動について（ボディランゲージetc）</li> <li>・年少者のための日本語教育</li> <li>・日本語学習者の観察やケーススタディ</li> </ul>						
到達目標	各自、テーマを見つけて卒業論文を書きあげることができる。						
授業計画	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導1 第10回 各自のテーマについて個別指導2 第11回 各自のテーマについて個別指導3 第12回 各自のテーマについて個別指導4 第13回 各自のテーマについて個別指導5 第14回 各自のテーマについて個別指導6 第15回 前期のまとめ</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについて個別指導1 第23回 各自のテーマについて個別指導2 第24回 各自のテーマについて個別指導3 第25回 各自のテーマについて個別指導4 第26回 各自のテーマについて個別指導5 第27回 各自のテーマについて個別指導6 第28回 卒業論文発表会 第29回 卒業論文発表会 第30回 論述口頭試問</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分のテーマについて、参考文献や論文を積極的に探してください。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価基準と評価方法	卒業論文70% 口頭試問30%						

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の指導。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の演習。						
到達目標	自身/他者の卒業研究の美点および改善点を見附けることができるやうに成る。 學説が必ずしも定めてゐないことを知る。						
授業計画	<p>【前期】</p> 01: 授業概要の説明 02: 卒業研究の指導 (1) 03: 卒業研究の指導 (2) 04: 卒業研究の指導 (3) 05: 卒業研究の指導 (4) 06: 卒業研究の指導 (5) 07: 卒業研究の指導 (6) 08: 卒業研究の指導 (7) 09: 卒業研究の指導 (8) 10: 卒業研究の指導 (9) 11: 卒業研究の指導 (10) 12: 卒業研究の指導 (11) 13: 卒業研究の指導 (12) 14: 中間発表會 (1) 15: 中間発表會 (2) <p>【後期】</p> 01: 進捗状況の報告 02: 卒業研究の指導 (1) 03: 卒業研究の指導 (2) 04: 卒業研究の指導 (3) 05: 卒業研究の指導 (4) 06: 卒業研究の指導 (5) 07: 卒業研究の指導 (6) 08: 卒業研究の指導 (7) 09: 卒業研究の指導 (8) 10: 卒業研究の指導 (9) 11: 卒業研究の指導 (10) 12: 卒業研究の指導 (11) 13: 卒業研究の指導 (12) 14: 卒業論文発表會 (1) 15: 卒業論文発表會 (2)						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表資料作成。 論文讀解。						
授業方法	演習。						
評価基準と評価方法	卒業研究: 80% 質疑應答: 20% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書	無し。						

参考書	無し。
-----	-----

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	田附 敏尚						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	<p>(前期)</p> <p>第1回 卒業論文とは</p> <p>第2回 各自の研究テーマの発表と検討①</p> <p>第3回 各自の研究テーマの発表と検討②</p> <p>第4回 各自の研究テーマの発表と検討③</p> <p>第5回 先行研究の調べ方</p> <p>第6回 データ収集の方法</p> <p>第7回 テーマ決定</p> <p>第8回 研究計画の提出と検討</p> <p>第9回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第10回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第11回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第12回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第13回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第14回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討</p> <p>(後期)</p> <p>第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告</p> <p>第17回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む)</p> <p>第19回 中間発表会②</p> <p>第20回 中間発表会に対する指導</p> <p>第21回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第22回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第23回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第24回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第25回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第26回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定</p> <p>第28回 提出直前相談</p> <p>第29回 卒論発表会①</p> <p>第30回 卒論発表会②</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%						
教科書							



参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	田附 敏尚						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	<p>(前期)</p> <p>第1回 卒業論文とは</p> <p>第2回 各自の研究テーマの発表と検討①</p> <p>第3回 各自の研究テーマの発表と検討②</p> <p>第4回 各自の研究テーマの発表と検討③</p> <p>第5回 先行研究の調べ方</p> <p>第6回 データ収集の方法</p> <p>第7回 テーマ決定</p> <p>第8回 研究計画の提出と検討</p> <p>第9回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第10回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第11回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第12回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第13回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第14回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討</p> <p>(後期)</p> <p>第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告</p> <p>第17回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む)</p> <p>第19回 中間発表会②</p> <p>第20回 中間発表会に対する指導</p> <p>第21回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第22回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第23回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第24回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第25回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第26回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定</p> <p>第28回 提出直前相談</p> <p>第29回 卒論発表会①</p> <p>第30回 卒論発表会②</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	丸山 果織						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本の造形芸術についての研究						
授業の概要	書、絵画、工芸など日本の造形芸術を中心とした卒業論文を執筆する学生に対して、助言、指導を行う。						
到達目標	日本の造形芸術を対象に、自分自身で研究、考察し、その成果を卒業論文としてまとめる。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 卒業研究について</li> <li>2) 予定している研究テーマについての発表</li> <li>3) 研究テーマについての検討①</li> <li>4) 研究テーマについての検討②</li> <li>5) 研究テーマに関する先行研究</li> <li>6) 研究テーマに関する書籍、資料の探索</li> <li>7) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価①</li> <li>8) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価②</li> <li>9) 研究報告・指導①</li> <li>10) 研究報告・指導②</li> <li>11) 論文の書き方について①</li> <li>12) 論文の書き方について②</li> <li>13) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導①</li> <li>14) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導②</li> <li>15) 夏期休暇の課題発表</li> </ol> <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究報告・質疑応答・指導①</li> <li>2) 研究報告・質疑応答・指導②</li> <li>3) 論文の題目・目次（構成）の報告・指導</li> <li>4) 中間発表・指導①</li> <li>5) 中間発表・指導②</li> <li>6) 中間発表・指導③</li> <li>7) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認①</li> <li>8) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認②</li> <li>9) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認③</li> <li>10) 文章表現、記述に関する確認</li> <li>11) 参考文献の表記、引用に関する確認</li> <li>12) 研究報告・質疑応答①</li> <li>13) 研究報告・質疑応答②</li> <li>14) 研究報告・質疑応答③</li> <li>15) 卒業論文の成果報告</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	提示された資料は必ず調査し、そこから新たな資料を探索することを望む。						
授業方法	講義、発表、個別指導						
評価基準と評価方法	論文審査と口頭試問（100%）						
教科書							

参考書	個別に提示する
-----	---------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しいことばづかい」を知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知り、規範主義的なものの見方だけではなく、記述主義的な考え方も身につけてほしい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。</li> <li>・日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、正誤判断とその理由説明ができるようになる。</li> <li>・「正しいことばづかい」についての自分の考えを述べられるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス/敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語(謙譲語Ⅰ) 第3回 敬語の種類とはたらき③ 丁寧語(謙譲語Ⅱ)・丁寧語 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語、二重敬語 第5回 間違いやすい敬語 第6回 「丁寧に話す」とは 第7回 ここまでのまとめ 第8回 ことばの乱れ? ① 「ら抜きことば」など 第9回 ことばの乱れ? ② 「コンビ敬語」など 第10回 文法とことばの正しさ 第11回 方言・位相とことばの正しさ 第12回 漢字表記と送り仮名 第13回 仮名遣い 第14回 まとめと記述課題 第15回 「正しいことばづかい」とは						
授業外における学習(準備学習の内容)	前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。また、敬語を含めことばの問題を身近な例で確認することに努めてほしい。授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントシートの記述内容を含む)20%、小テスト20%、中間試験30%、期末試験30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論A						
担当教員	辻野 梨花						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共生						
授業の概要	グローバル化の世界的潮流の中で、国境を越えた人の移動が活発な時代を私たちは生きています。多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していきます。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在します。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきます。また比較対象として、日本以外の社会についても見ていく予定です。						
到達目標	身近に存在する文化の多様性について説明することができる 多文化共生についての理解を深める グローバルな世界情勢とローカルな状況との関連性を説明することができる						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要 第3回映像に見る多文化社会日本の歴史 第4回異文化接触空間と多文化イベント 第5回グローバリゼーションと共生 第6回グローバリゼーションと人の移動 第7回グローバリゼーションと日本社会 第8回法的制度 第9回外国人労働と受入れのしくみ 第10回外国人労働者の受入れ制度の比較 第11回在住外国人と暮らし①在住外国人の語りに耳を傾ける 第12回在住外国人と暮らし②グループプレゼンテーション 第13回在日外国人と労働 第14回映像から知る在日外国人と教育 第15回まとめ  講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから世界情勢や日常の情景に目を向け、関心をもつ習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワークや発表を行うこともあります						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらう簡単なレポート・平常点10%で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に随時紹介します。 『多文化社会への道』 駒井洋編著（明石書店） 『外国人労働者受け入れを問う』 宮島喬・鈴木江里子（岩波書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの比較文化						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができます。本講義では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していきます。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても見ていく予定です。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める メディアをジェンダーの視点から分析することができる ジェンダーに関する社会テーマに関して具体的に説明することができる						
授業計画	<p>第1回 イントロダクション  第2回 ジェンダーについて  第3回 文化とジェンダー  第4回 フェミニズムとジェンダー研究  第5回 創られるジェンダーのイメージ①メディアとジェンダー  第6回 創られるジェンダーのイメージ②PSA広告の分析  第7回 創られるジェンダーのイメージ③グループプレゼンテーション  第8回 ジェンダーと性別分業  第9回 ジェンダーと性役割  第10回 開発  第11回 開発とジェンダー  第12回 映像に見る開発とジェンダー  第13回 労働とジェンダー  第14回 ワーク・ライフ・バランス  第15回 まとめ</p> <p>講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります  映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワークと発表を行うこともあります						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらう簡単なレポート・平常点10%で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、2013、ミネルヴァ書房（ISBN 9784623065165） 『最新Study Guide メディア・リテラシー 入門編』鈴木みどり、2013、リベルタ出版（ISBN 9784903724379） 『オランダ流ワーク・ライフ・バランス―「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法』中谷文美、2015、世界思想社（ISBN 9784790716464） その他授業中に随時紹介します。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論A/Studies for Second Language Acquisit						
担当教員	大和 祐子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	第二言語習得に関する基本的な用語が分かり、説明することができる。第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語(1)独自のルール 第4回：中間言語(2)中間言語の発達 第5回：言語転移(1)母語の影響 第6回：言語転移(2)言語転移に影響する要因 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプットとアウトプット 第10回：アウトプットの効果 第11回：文法を教えることの意義(1)意識的な知識 第12回：文法を教えることの意義(2)教室での学習の意味 第13回：文法を教えることの意義(3)教室でのインプット 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で扱う専門用語の予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	テスト(レポート、課題含む)50%、平常点(授業への貢献度、授業態度)50%。 欠席は減点対象とする。						
教科書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 監修：白井恭弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN:978-4-87424-480-7						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論B/Studies for Second Language Acquisit						
担当教員	大和 祐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	第二言語習得に関する基本的な用語が分かり、説明することができる。第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論A復習 第3回：インプット重視の指導 第4回：言語形式に焦点を当てた指導 第5回：フィードバック 第6回：言語習得に及ぼす影響(1)年齢の影響 第7回：言語習得に及ぼす影響(2)バイリンガリズム 第8回：言語学習に成功する人とはどんな人か 第9回：個人差の影響(1)適性 第10回：個人差の影響(2)学習スタイル 第11回：個人差の影響(3)動機づけ 第12回：個人差の影響(4)学習者の性格 第13回：個人差の影響(5)学習ストラテジー 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で扱う専門用語の予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	テスト(レポート、課題含む)50%、平常点(授業への貢献度、授業態度)50%。 欠席は減点対象とする。						
教科書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 監修：白井恭弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN:978-4-87424-480-7						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	真鍋 昌生						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景を踏まえ当時の書の特徴を理解する。その際、具体的な作品を取り上げ鑑賞・臨書し、より理解を深める。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。 中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ガイダンス、中国書道史について</li> <li>②殷、西周（甲骨文、金文）</li> <li>③西周、東周（石鼓文、帛書）</li> <li>④秦、前漢（小篆、隸書）</li> <li>⑤後漢（八分隸、漢碑）</li> <li>⑥三国、西晋（残紙、書人の登場）</li> <li>⑦東晋（王羲之、王献之）</li> <li>⑧南北朝（龍門二十品）</li> <li>⑨隋、唐（墓誌銘、初唐の三大家）</li> <li>⑩唐（中唐・晩唐の書、顔真卿）</li> <li>⑪宗（淳化閣帖、北宋の四大家）</li> <li>⑫元、明（趙孟頫、元末明初の書人）</li> <li>⑬明（中期の書道興隆、董其昌）</li> <li>⑭清（明末清初の書）</li> <li>⑮清（揚州八怪、金石学、篆刻）</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題・レポート50%						
教科書	『書Ⅰ』（光村図書）490円（内税） 『書Ⅱ』（光村図書）490円（内税）						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学A／日朝対照言語学A						
担当教員	李 允昊						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と韓国語の対照研究						
授業の概要	「日本語と韓国語は酷似している」といわれるほど、日本語話者にとって韓国語はとっつきやすい言語といえる。本講義では対照言語学的観点を中心に、日本語と韓国語を観察・比較し、それぞれの言語に隠されている文化を読み取っていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語話者に間違いやすい韓国語の発音・語彙・文法・言い回しと、韓国語話者に間違いやすい日本語の発音・語彙・文法・言い回しがなぜ生じるかを認識する。</li> <li>2. 韓国人日本語学習者に日本語を効果的に教えるための力を養う。</li> <li>3. 言語の形や機能だけでなく、相互理解や文化理解、異文化対応に必要な能力を養う。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 日韓語の母音と子音</li> <li>3. 日韓文化の理解 1</li> <li>4. 日韓語の音節構造</li> <li>5. 韓国語のパソコン入力</li> <li>6. 日韓語の名詞文</li> <li>7. 日韓文化の理解 2</li> <li>8. 日韓語の用言文</li> <li>9. 日韓語の助詞</li> <li>10. 日韓語の助数詞</li> <li>11. 日韓文化の理解 3</li> <li>12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1</li> <li>13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2</li> <li>14. 調べてみよう、日本語と多言語の類似点・相違点 3</li> <li>15. まとめ＋期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義中心（＋討論）						
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末試験 40%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『ことばと文化の日韓比較－相互理解をめざして』（斉藤明美） 『箸とチョッカタケ－ことばと文化の日韓比較』（任栄哲・井出里咲子）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学B／日朝対照言語学B						
担当教員	李 允昊						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と韓国語の対照研究						
授業の概要	「日本語と韓国語は酷似している」といわれるほど、日本語話者にとって韓国語はとっつきやすい言語といえる。本講義では対照言語学的観点に基づき、日本語と韓国語を観察・比較し、それぞれの言語に隠されている文化を読み取っていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語話者に間違いやすい韓国語の発音・語彙・文法・言い回しと、韓国語話者に間違いやすい日本語の発音・語彙・文法・言い回しがなぜ生じるかを認識する。</li> <li>2. 韓国人日本語学習者に日本語を効果的に教えるための力を養う。</li> <li>3. 言語の形や機能だけでなく、相互理解や文化理解、異文化対応に必要な能力を養う。</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 日韓語の語彙</li> <li>3. 日韓文化の理解 1</li> <li>4. 日韓語のアスペクト</li> <li>5. 日韓語の表現構造</li> <li>6. 日韓文化の理解 2</li> <li>7. 日韓語の否定文</li> <li>8. 日韓語の受け身文</li> <li>9. 日韓語の使役文</li> <li>10. 日韓文化の理解 3</li> <li>11. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1</li> <li>12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2</li> <li>13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 3</li> <li>14. 調べてみよう、日本語と多言語の類似点・相違点 4</li> <li>15. まとめ＋期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義中心（＋討論）						
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末試験 40%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『ことばと文化の日韓比較－相互理解をめざして』（斉藤明美） 『箸とチョッカタケ－ことばと文化の日韓比較』（任栄哲・井出里咲子）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握できる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国・中国語概況</li> <li>②日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響</li> <li>③日中同形異義語</li> <li>④中国人にとって難しい日本語（作文）</li> <li>⑤中国人にとって難しい日本語（会話）</li> <li>⑥字幕翻訳について</li> <li>⑦日本語と中国語の文法の違い</li> <li>⑧アルファベットや数字によるコミュニケーション</li> <li>⑨日本と中国の文化・風習の違い</li> <li>⑩日中の飲食文化について</li> <li>⑪まとめ</li> <li>⑫受講生がテーマを決めて研究発表（習慣）</li> <li>⑬受講生がテーマを決めて研究発表（文化）</li> <li>⑭受講生がテーマを決めて研究発表（語彙・翻訳）</li> <li>⑮総括</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50% 発表30% レポート20%						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、教授効果をあげる工夫ができる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国の通過儀礼（結婚式事情）</li> <li>②日中祝祭日比較</li> <li>③外来語の受容と色彩感覚の差異</li> <li>④日本語と中国語の同形異義語</li> <li>⑤中国語の発音特性</li> <li>⑥中国語の文法特性</li> <li>⑦中国人日本語学習者の誤用分析</li> <li>⑧日本語と中国語の対照論文分析Ⅰ</li> <li>⑨日本語と中国語の対照論文分析Ⅱ</li> <li>⑩まとめ、ディスカッション、課題提示</li> <li>⑪個人研究発表1（国情の違い）</li> <li>⑫個人研究発表2（文化・風習の違い）</li> <li>⑬個人研究発表3（言葉の違い）</li> <li>⑭研究発表の補足と講評</li> <li>⑮総まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50% 発表20% レポート30%						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 (英語以前～中期英語前半) 第3回 言語の歴史 (2) 英語編 (中期英語後半～近代英語) 第4回 言語の歴史 (3) 英語編 (現代英語) 第5回 言語の歴史 日本語編 第6回 言語の語彙 (1) 英語編 第7回 言語の語彙 (2) 日本語編 第8回 言語の語順 第9回 言語の音韻体系 (1) 英語編 第10回 言語の音韻体系 (2) 日本語編 第11回 言語の文字体系 (1) 英語編 第12回 言語の文字体系 (2) 日本語編 第13回 丁寧表現 (1) 英語編 第14回 丁寧表現 (2) 日本語編 第15回 まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポートテスト (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究、及び実例の考察						
授業の概要	『日英対照言語学A』に引き続き、日本語と英語についてあらゆる側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていくとともに、実際に日常生活の中で見聞きし使用している表現についても考察していきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶだけでなく、実生活においての実例を考察することが出来る。						
授業計画	第1回 言語の方言 (1) 英語編 第2回 言語の方言 (2) 日本語編 第3回 言語と社会階級 (1) 英語編 第4回 言語と社会階級 (2) 日本語編 第5回 人種・民族による語差 第6回 性別による語差 第7回 年齢による語差 第8回 ことばの持つイメージ 第9回 言語接触 (1) 英語編 第10回 言語接触 (2) 日本語編 第11回 非言語伝達 (1) 英語編 第12回 非言語伝達 (2) 日本語編 第13回 言語と文化 (1) 英語編 第14回 言語と文化 (2) 日本語編 第15回 総まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義、実技						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポートテスト (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	日本語を使って世界と交流する						
授業の概要	日本語学習者の中で日本語や日本文化がどのように捉えられているのかを体験する。そのためこのクラスは留学生も履修できるクラスとなっている。海外から見た日本を体験することによって、多文化の中にある「日本」に触れる。この授業は学外研修なので、学外に行くことを前提とする。そのため、受講者と相談の上、他の曜日や時間帯に行くことがある。このように、授業の中で留学生と学外に行ったり、留学生や外国人とコミュニケーションを取ることも授業も含まれるため、積極的な参加を望む。						
到達目標	① 外国語として日本語を見ることが出来る。 ② 日本語を使って、日本語学習者と交流することができる。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：「学外研修①」についての説明 第3回 「学外研修①」 第4回 講義：「学外研修①」ゲストスピーカーの話を聞く 第5回 講義：「学外研修②」についての説明 第6回 「学外研修②」 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：総まとめ ※第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	復習（研修で見聞したことの振り返り）が大切になってくるため、研修の後は、忘れないうちにノートを取るなど、復習のための作業は怠らないようにしてほしい。						
授業方法	講義および学外研修						
評価基準と評価方法	各回の学外研修後の課題と授業貢献度 30%×2回=60% 最終レポート 40%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	王朝びとの装束と住まいの探究						
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や京都の寺社を訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、 時雨殿などを訪ねて、袷や狩衣を実際に着装して、王朝人の装束について学習する。						
到達目標	実地踏査を通して、王朝びとの生活と文化について、実感を持って認識、理解できる。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：王朝びとの装束について（「学外研修①」についての説明） 第3回 学外研修①：嵐山「小倉百人一首時雨殿」・嵯峨野（野宮神社・清涼寺）など 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：王朝びとの住まいについて（「学外研修②」についての説明） 第6回 学外研修②：京都御所・下鴨神社など 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：実地踏査によって、探究したことについてのまとめ  第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	王朝びとの生活と文化に関する本を読んだり、写真集・図録や映像を見たりして、理解を深めるための努力をする。						
授業方法	講義と学外研修						
評価基準と評価方法	レポート 50% 小テスト 30% 授業・学外研修に対する取り組み 20%						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	適宜提示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶA						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の相 (aspect) および時制 (tense)。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	日本語の相・時制の特徴を掴むことができるやうに成る。 日本語(教育)学における相・時制の扱ひの問題点を知る。 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 相 (aspect) とは何か。 03: 完成相と繼續相の違い 04: 繼續相と完了相の違い 05: 日本語諸變種の相 06: 日本語以外の相 07: 文章指導 08: 時制 (tense) とは何か。 09: 過去と非過去 10: 絶對的時制と相對的時制の違い 11: 日本語諸變種の時制 12: 日本語以外の時制 13: 反實假想の相・時制 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 試験: 60% 出席点は無い。						
教科書	庵 功雄・清水 佳子 (2016) 『日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—改訂版』、スリーエーネットワーク						
参考書	井上 優 (2001) 「現代日本語の「タ」—主文末の「…タ」の意味について—」、つくば言語文化フォーラム (編) 『「た」の言語学』、pp. 97-163、ひつじ書房 紙谷 栄治 (1977) 「助動詞「た」の一解釈—形式名詞「とき」につづく場合を中心に—」、『京都府立大学学術報告 人文』29、pp. 1-10、京都府立大学 金水 敏 (2001) 「テンスと情報」、『文法と音声』111、pp. 55-79、くろしお出版 工藤 真由美 (1982) 「シテイル形式の意味のあり方」、『日本語学』1-12、pp. 38-47、明治書院 工藤 真由美 (1983) 「宇和島方言のアスペクト (その一)」、『国文学 解釈と鑑賞』48-6、pp. 101-19、至文堂 工藤 真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』、ひつじ書房 黒木 邦彦 (2013) 「過去表現の構造とその変化」、高山 善行・青木 博文・福田 嘉一郎 (編) 『日本語文法史研究1』、ひつじ書房 郡司 隆男 (2004) 「日本語のアスペクトと反実假想」、『Technical and applied linguistics at Kobe Shoin』7、pp. 21-34、神戸神戸松蔭女子学院大学 定延 利之 (2001) 「情報のアクセスポイント」、『月刊言語』30-13、pp. 64-70、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会のなかの日本語						
授業の概要	ことばは、同じ内容を表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意識の違いによってさまざまな変種があり得る。この講義では、日本における「言語と属性」「言語と文化」「言語意識」等に注目し、その理解を深めることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語と社会にまつわる基礎的な学問的知識を身につけ、それを説明できるようになる。</li> <li>・言語とそれに関連するデータを観察し、分析することができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回: ガイダンス 第2回: 言語と属性 (1) 性 第3回: 言語と属性 (2) 社会階層 第4回: 言語と属性 (3) 年齢 第5回: 言語と属性 (4) 役割語 第6回: 言語と文化 (1) 第7回: 言語と文化 (2) 第8回: ここまでのまとめ 第9回: 言語接触 第10回: 言語変化 第11回: 言語意識 第12回: 言語と場面 第13回: 言語景観・多言語社会 第14回: 言語と地域 第15回: 総括と記述課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。また、ことばの問題を身近な例で確認することに努めてほしい。 授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントシートの内容含む)20%、小テスト30%、中間試験20%、期末試験30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	岩田祐子・重光由加・村田泰美『概説 社会言語学』(2013年、ひつじ書房) 真田信治・渋谷勝己・杉戸清樹・陣内正敬『社会言語学』(1992年、おうふう) 田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』(1996年、ミネルヴァ書房) 東照二『社会言語学入門(改訂版) 一生活た言葉のおもしろさに迫る—』(2009年、研究社)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、模擬授業のためなさまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、模擬授業を実施する。授業外ではアメリカ、アジアの協定校からの語学留学生の日本語パートナーとして、日本語習得の手伝いをして、日本語指導だけではなく、異文化コミュニケーションも体験することができる授業となる。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習（見学）を行うことがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教えるべき文型が理解できる。</li> <li>② 教案を作ることができる。</li> <li>③ 実際に日本語の授業を行うことができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 模擬授業6 L11, L12 第15回 学外の日本語教育施設における授業見学						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の為の資料探しや、教材作を積極的に行うこと。						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級 I 本冊（スリーイーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、模擬授業と教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置く。最後に学内の英語教員、あるいは学外の日本語学習者などを対象とした教壇実習を行う。この教壇実習は、媒介語、板書、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え、フィードバックをもらう。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 レポートの好評 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 ゲームを作ってみましょう 第5回 模擬授業1 L13, L14 第6回 模擬授業2 L15, L16 第7回 模擬授業3 L17, L18 第8回 模擬授業4 L19, L20 第9回 模擬授業5 L21, 第10回 模擬授業6 L22, 第11回 模擬授業7 L23, 第12回 模擬授業8 L24, 第13回 模擬授業9 L25, 第14回 模擬授業の振り返り・まとめ 第15回 学外での教壇実習(あるいは見学)						
授業外における学習(準備学習の内容)	模擬授業の為の資料探しや、教材作りが必要です。						
授業方法	講義形式+実習(模擬授業)						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊(スリーイーネットワーク) 2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育入門						
授業の概要	日本語を教えるためには、まず、日本語そのものについて知る必要がある。そのため、まず、母語としての日本語ではなく、外国語としての日本語をどのようにとらえるかを学んでいく。同時に、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深めていく。また、このクラスでは留学生との合同授業を行うことがあるので、積極的に参加してほしい。						
到達目標	1. 日本語教師に必要な基礎的知識を身につけ、学習者にとって何が問題となりうるのかを指摘できる。 2. 多文化共生、多言語社会を身近な問題として捉え、現状理解とともに問題点の提起ができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 世界のなかの日本語 第3回 日本語の特徴 第4回 序数詞 第5回 敬語について1 第6回 変体がない 第7回 共通語の成り立ち 第8回 外国人が日本らしいと感じるもの 第9回 敬語について2 第10回 あいまいな日本語 第11回 忌み言葉 第12回 若者言葉 第13回 留学生との合同授業 第14回 日本語のコミュニケーションストラテジー 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	宿題として出されたテーマは自分自身考えて調べること。						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションも行うため、積極的な参加を望む。						
評価基準と評価方法	平常点(授業への発言や貢献度、取り組みも含む)50%、小テスト10%、期末レポートあるいは試験40%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。また、このクラスでは留学生との合同授業も行います。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類 第4回 辞書形 第5回 ます形 第6回 て形 第7回 た形 第8回 可能形 第9回 受身形 第10回 使役形 第11回 条件 第12回 自動詞 第13回 他動詞 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何が違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。						
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類・辞書形 第4回 ます形/て形/た形 第5回 条件 第6回 自動詞・他動詞 第7回 テンス 第8回 アスペクト 第9回 モダリティ 第10回 終助詞 第11回 副詞 第12回 接続詞 第13回 待遇表現・敬語 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物・10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 テンス 第2回 アスペクト 第3回 モダリティ 第4回 終助詞 第5回 副詞 第6回 接続詞 第7回 待遇表現 第10回 敬語 第11回 対照言語学1 (言語類型論) 第12回 対照言語学2 (英・中・韓国語との比較) 第13回 初級の指導 第14回 中級の指導 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級・上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語教育、継承言語など、日本語をとりまく様々な問題点にもふれる。						
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 初級の指導 第2回 中級の指導 第3回 上級の指導 第4回 日本語の誤用分析 第5回 日本語の音声1 (アクセントなど) 第6回 日本語の音声2 (調音点・調音法) 第7回 日本語の音声3 (発音表記) 第8回 日本語の音声4 (学習者の母語との関係) 第9回 対照言語学1 (言語類型論) 第10回 対照言語学2 (英・中・韓国語との比較) 第11回 対照言語学3 (英・中・韓国語との比較) 第12回 年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回 聴解演習1 第14回 聴解演習2 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語教授法基礎A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 第3回：日本語教育概説2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 第3回：日本語教育概説2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 第3回：教科書研究2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 「パターンプラクティス」 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 「タスク」 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 「スキミング」 第8回：「読む」「書く」指導法 1 「スキミング」 第9回：「読む」「書く」指導法 2 「精読」 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できるようになる。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 第3回：教科書研究2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 「パターンプラクティス」 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 「タスク」 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 「スキミング」 第8回：「読む」「書く」指導法 1 「スキミング」 第9回：「読む」「書く」指導法 2 「精読」 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「日本語教育能力検定試験に合格するための教授法」小林ミナ アルク ISBN978-4-7574-1830-1						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法とその歴史。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語の構造を捉へて、「文法」といふ言葉に対する漠然としたイメージが具體化できるやうになる。 日本語文法の歴史を知る。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 漢字にめぐりあう—奈良時代 03: 奈良時代語概説 04: 文章をこころみる—平安時代 05: 平安時代語概説 06: うつりゆく古代語—鎌倉・室町時代 07: 鎌倉・室町時代語概説 08: 近代語のいぶき—江戸時代 09: 江戸時語概説 10: 言文一致をもとめる—明治時代以後 11: 近代語概説 11: 古典日本語における動詞の構造 12: 文法接尾辭と派生接尾辭の違い 13: 語幹の派生 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 試験: 60% 出席點は無い。						
教科書	山口 仲美 (2006) 『日本語の歴史』(岩波新書)、岩波書店						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 小田 勝 (2015) 『実例詳解 古典文法総覧』、和泉書院 風間 伸次郎 (1992) 「接尾型言語の動詞複合体について: 日本語を中心として」、 宮岡伯人 (編) 『北の言語: 類型と歴史』、pp. 241-60、三省堂 清瀬 義三郎則府 (1971) 「連結子音と連結母音と—日本語動詞無活用論—」、 『国語学』86、pp. 42-56、国語学会 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院 南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史言語学、比較言語学、言語地理学。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語変化の要因および一般性を知る。 古典に関する文献学的知識を身に付ける。 時代ないし地域に據る言語の差異を知る。 日本語音韻史の概要を知る。 學説が必ずしも定まっておらず異なることを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 日本語の範囲 03: 日本語史の時代区分 04: 音節構造の変遷 05: アクセントの変化 06: 漢字と假名 07: 假名遣ひ 08: 固有の語彙と外來の語彙 09: 漢語の受容と應用 10: 日本語における文法変化 11: 漢文體、和文體、漢文訓讀體 12: 地域の言葉の位相 13: 男女の言葉の違い 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容)	各回で取り上げる章は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 試験: 60% 出席点は無い。						
教科書	沖森卓也(編著)、陳力衛・肥爪周二・山本真吾(2010)『日本語史概説』、朝倉書店						
参考書	小松茂美(1968)『かな—その成立と変遷—』(岩波新書・青版679)、岩波書店 樺島忠夫(1979)『日本の文字—表記体系を考える—』(岩波新書・黄版75)、岩波書店 馬淵和夫(1993)『五十音図の話』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）ひらがな、カタカナ 第7回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査 第8回 日本語の語彙（2）語の意味 第9回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第10回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第11回 日本語の文法（3）文法概念、語用論 第12回 日本語の方言（1）方言区画、東西対立分布 第13回 日本語の方言（1）周圏分布、様々な地域差 第14回 日本語の位置 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。 また、授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 また、manabaを用いた小テスト等の課題を課すことがある。授業時にも小テスト等を行うことがある。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：20% 授業参加・積極性（質疑応答など）：40% 試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめた小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）ひらがな、カタカナ 第7回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査 第8回 日本語の語彙（2）語の意味 第9回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第10回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第11回 日本語の文法（3）文法概念、語用論 第12回 日本語の方言（1）方言区画、東西対立分布 第13回 日本語の方言（1）周圏分布、様々な地域差 第14回 日本語の位置 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。 また、授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 また、manabaを用いた小テスト等の課題を課すことがある。授業時にも小テスト等を行うことがある。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：20% 授業参加・積極性（質疑応答など）：40% 試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料さがすことができる。						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ---助詞 第6回 文の要素のとりたて---焦点化 第7回 ハとガの話---主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1---受身 第10回 ヴォイス2---使役 第11回 ヴォイス3---授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス---述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1---ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2---テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表があつた問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点(50%)発表(20%)レポート(30%)						
教科書	近藤安月子(2008)『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社(1800円) ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講讀。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義および演習。						
到達目標	<p>古典の讀解力を高める。          古典に関する文獻學的知識を身に付ける。          文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。          學説が必ずしも定めてゐないことを知る。          卒業研究の種を見附ける。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明と受講生各自の擔當範囲の決定          02: 講讀用資料作成の指導 (1)          03: 講讀用資料作成の指導 (2)          04: 講讀用資料作成の指導 (3)          05: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (1)          06: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (2)          07: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (3)          08: こゝまでの問題點の反省          09: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (4)          10: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (5)          11: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (6)          12: こゝまでの問題點の反省          13: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (7)          14: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (8)          15: 總括</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	<p>発表: 40%          質疑應答: 20%          學期末報告書: 40%</p> <p>特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。</p>						
教科書	<p>『大鏡』、武田 友宏 (編)、角川学芸出版、2007年 (角川ソフィア文庫87)          柳田 國男 (1910)『遠野物語一付・遠野物語拾遺』、角川書店、2004年 (角川ソフィア文庫102)</p> <p>Kindle版は、文庫版とはページを異にする可能性があるので、不可 (個人的にはKindleを愛好してゐるが)。</p>						
参考書	無し。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	<p>普通の生活の中では気にならなくても、注意深く観察すると、身の回りには不思議なことばがあふれているものである。この第一演習では、日常生活を送る中で触れている「身近な日本語」を取り上げ、研究の題材とする。この時、まずは「身近な日本語」の中に疑問を見出さなければはじまらないので、テキストを用いて「身近な日本語」を考える材料としたい。あることばに対して抱く「なんか変だ」「ちょっと気になる」「自分の使い方とは違う」等々の直感を、データ収集とデータ分析を通して、研究のレベルまで発展させていってほしい。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス  第2回 発表の方法  第3回 日本語に関するテキストの講読①(第1章)  第4回 日本語に関するテキストの講読②(第2章)  第5回 日本語に関するテキストの講読③(第3章)  第6回 日本語に関するテキストの講読④(第4章)  第7回 日本語に関するテキストの講読⑤(第5章)  第8回 日本語に関するテキストの講読⑥(第6章)  第9回 日本語に関するテキストの講読⑦(第7章)  第10回 発展演習(文字表記)  第11回 発展演習(文法)  第12回 研究計画の立て方  第13回 各自の研究計画の検討  第14回 予備調査の実施  第15回 予備調査結果の報告</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。  またそれとともに、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。</p>						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	<p>日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑応答)60%、レポート40%</p>						
教科書	<p>定延 利之, 茂木 俊伸, 金田 純平, 森 篤嗣 (2012) 『私たちの日本語』 朝倉書店  ISBN-10: 4254510411  ISBN-13: 978-4254510416</p>						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	<p>平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。  『大和物語』百七十三章段のうち、百四十四章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。  本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。</p>						
到達目標	<p>平安時代における歌物語について説明できるようになる。  『大和物語』のだいたいの口語訳ができるようになる。  古文読解の能力を高める。</p>						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の演習 第4回 第二段の演習 第5回 第三段の演習 第6回 第四段の演習 第7回 第八段の演習 第8回 第二十五段の演習 第9回 第二十七段の演習 第10回 第二十九段の演習 第11回 第三十段の演習 第12回 第四十一段の演習 第13回 第四十二段の演習 第14回 第四十五段の演習 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『大和物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのほもとより、発表者以外も『大和物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、まず日本の美術の展開（飛鳥～江戸時代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について）</li> <li>2) 飛鳥時代</li> <li>3) 奈良時代</li> <li>4) 平安時代①</li> <li>5) 平安時代②</li> <li>6) 平安時代③</li> <li>7) 平安時代④</li> <li>8) 鎌倉時代</li> <li>9) 室町時代、桃山時代</li> <li>10) 江戸時代①</li> <li>11) 江戸時代②</li> <li>12) 江戸時代③</li> <li>13) 江戸時代④</li> <li>14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて</li> <li>15) 各自の関心事について小発表②、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表 第2回 夏休みのレポートの発表 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティの表現 第10回 出来事の間連づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現――敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（50%）発表（20%）レポート（30%）						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語研究の方法論。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	言語資料を収集、分析、整理する方法を掴むことができるやうに成る。 言語資料の読み取り方を掴むことができるやうに成る。 論理的文章の書き方を掴むことができるやうに成る。 議論の方法を掴むことができるやうに成る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 論文講読 (1): 論旨要約 03: 論文講読 (2): 用語解説 04: 論文講読 (3): 参考文献から知識を広げる 05: 言語資料の収集 (1): 質問票作成 06: 言語資料の収集 (2): データ入力 07: 言語資料の収集 (3): 分析 08: 形態統語的特徴の整理 (1): 形態的特徴 09: 形態統語的特徴の整理 (2): 統語的特徴 10: 形態統語的特徴の整理 (3): 語類認定 11: 形態統語的特徴の整理 (4): 文の階層構造 12: 意味・用法の分類 (1): 格 13: 意味・用法の分類 (2): アスペクト (aspect) とテンス (tense) 14: 意味・用法の分類 (3): 複文 15: 総括						
授業外における学習(準備学習の内容)	言語資料収集。 発表資料作成。 論文読解。  教員が manaba にアップロードする豫習資料には事前に目を通しておくこと。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 質疑応答: 20% 學期末報告書: 40%  特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。  オフィス アワー: 水曜日14:40-16:10						
教科書	無し。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	前期に引き続き現代日本語におけるさまざまな問題点を知るために、日本語学のテキストを講読する。また、前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。</li> <li>・基本的な知識と手法を用いてことばを分析できるようになる。</li> <li>・テキストの的確な要約ができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 日本語に関するテキストの講読①(第8章) 第4回 日本語に関するテキストの講読②(第9章) 第5回 日本語に関するテキストの講読③(第10章) 第6回 日本語に関するテキストの講読④(第11章) 第7回 日本語に関するテキストの講読⑤(第12章) 第8回 日本語に関するテキストの講読⑥(第13章) 第9回 日本語に関するテキストの講読⑥(第14章) 第10回 発展演習(コーパス検索) 第11回 個人別演習発表 第12回 個人別演習発表 第13回 個人別演習発表 第14回 個人別演習発表 第15回 個人別演習発表・まとめ(卒業論文に向けて)						
授業外における学習(準備学習の内容)	講読形式の部分は、次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。また、演習形式のところでは、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑応答)60%、レポート40%						
教科書	定延 利之, 茂木 俊伸, 金田 純平, 森 篤嗣 (2012)『私たちの日本語』朝倉書店 ISBN-10: 4254510411 ISBN-13: 978-4254510416						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	<p>平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。  『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。  本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。</p>						
到達目標	<p>平安時代における歌物語について説明できるようになる。  『大和物語』のだいたいの口語訳ができるようになる。  古文読解の能力を高める。</p>						
授業計画	第1回 『大和物語』についての講義 第2回 第五十八段の演習 第3回 第七十段の演習 第4回 第七十六段の演習 第5回 第七十七段の演習 第6回 第九十一段の演習 第7回 第九十九段の演習 第8回 第百段の演習 第9回 第百四十七段前半の演習 第10回 第百四十七段後半の演習 第11回 第百四十九段前半の演習 第12回 第百四十九段後半の演習 第13回 第百五十六段の演習 第14回 第百六十一段の演習 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『大和物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、発表者以外も『大和物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60%）、小テスト（30%）、平常点（10%）						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、日本の美術の展開（明治～現代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 明治時代①</li> <li>2) 明治時代②</li> <li>3) 明治時代③</li> <li>4) 大正時代①</li> <li>5) 大正時代②</li> <li>6) 大正時代③</li> <li>7) 昭和初期①</li> <li>8) 昭和初期②</li> <li>9) 戦中・戦後①</li> <li>10) 戦後②</li> <li>11) 現代</li> <li>12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて①</li> <li>13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて②</li> <li>14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③</li> <li>15) まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説を読む						
授業の概要	中島京子の『平成大家族』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家で、その『平成大家族』は自己破産、結婚、離婚、シングルマザー、いじめ、ひきこもり、認知症、介護などの問題を抱える四世帯同居大家族の混線連作小説集である。「酔こんぶプラン」「公立中サバイバル」、「時をかける老婆」、「吾輩は猫ではない」など。現代小説における諸問題もさることながら、現代日本における家族や文化風俗の問題も当然、演習での課題となることであろう。						
到達目標	現代小説の実態把握ができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 中島京子について 第3回 『平成大家族』について 第4回 家族小説のこと 第5回 結婚 第6回 離婚 第7回 自己破産 第8回 シングルマザー 第9回 ひきこもり 第10回 認知症 第11回 介護 第12回 公立と私立 第13回 家長 第14回 大家族 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の文化風俗や現代日本語について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	中島京子『平成大家族』集英社文庫 ISBN:9784087466188						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 第2演習についての位置づけについての概説</p> <p>第2回 語彙分析の方法について</p> <p>第3回 語彙分析の発表と質疑応答1</p> <p>第4回 語彙分析の発表と質疑応答2</p> <p>第5回 語彙分析の発表と質疑応答3</p> <p>第6回 アンケート調査の方法について</p> <p>第7回 用例採取の方法論について</p> <p>第8回 会話分析の方法について</p> <p>第9回 会話分析の発表と質疑応答1</p> <p>第10回 会話分析の発表と質疑応答2</p> <p>第11回 会話分析の発表と質疑応答3</p> <p>第12回 用例分析の方法</p> <p>第13回 用例分析の発表と質疑応答1</p> <p>第14回 用例分析の発表と質疑応答2</p> <p>第15回 前期のまとめとレポートについての指示</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表があつた問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価基準と評価方法	平常点(50%) 発表(20%) レポート(30%)						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今集遠鏡』を教材とする通時的対照日本語研究。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	<p>古典が読解できるやうに成る。          古典に関する文獻學的知識を身に付ける。          文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。          學説が必ずしも定めてゐないことを知る。          卒業研究の種を見附ける。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明と受講生各自の擔當範囲の決定          02: 講讀用資料作成の指導 (1)          03: 講讀用資料作成の指導 (2)          04: 講讀用資料作成の指導 (3)          05: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (1)          06: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (2)          07: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (3)          08: こゝまでの問題點の反省          09: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (4)          10: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (5)          11: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (6)          12: こゝまでの問題點の反省          13: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (7)          14: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (8)          15: 總括</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	<p>発表: 40%          質疑應答: 20%          學期末報告書: 40%</p> <p>特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。</p>						
教科書	今西 祐一郎 (校注)『古今集遠鏡1』(東洋文庫770)、平凡社						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	自分のことばを見つめる						
授業の概要	実際にゼミ生の会話を録音したものを文字に起こし、それを資料として分析していく。時間が限られているとはいえ、音声を伴った談話資料には、音声事象から形態・統語事象、談話全体に及ぶ事象まで、研究・分析すべき素材が詰まっている。また、方言学・社会言語学的観点からの切り口もあるだろう。前期は資料作成に重点を置き、正確な音声の聞き取りと共通語訳の作成によって、より音声・文法・意味への関心を深めてもらいたい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声資料を文字化することによって、音声を正しく聞き取ることができるようになる。</li> <li>・共通語訳をつけることによって、文法的・意味的領域への関心を深め、研究材料を見つけることができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文字起こしの方法 第3回 実際に文字起こしをしてみよう 第4回 発表① 第5回 発表② 第6回 発表③ 第7回 発表④ 第8回 発表⑤ 第9回 発表⑥ 第10回 発表⑦ 第11回 発表⑧ 第12回 発表⑨ 第13回 発表⑩ 第14回 発表⑪ 第15回 発表⑫						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題とした発表資料作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価40%（質疑応答含む）、発表40%、レポート20%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画							
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、まず日本の美術の展開（飛鳥～江戸時代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画、工芸、また、茶道や華道などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について）</li> <li>2) 江戸時代①</li> <li>3) 江戸時代②</li> <li>4) 江戸時代③</li> <li>5) 江戸時代④</li> <li>6) 江戸時代⑤</li> <li>7) 江戸時代⑥</li> <li>8) 江戸時代⑦</li> <li>9) 江戸時代⑧</li> <li>10) 明治時代①</li> <li>11) 明治時代②</li> <li>12) 明治時代③</li> <li>13) 論文の書き方</li> <li>14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて</li> <li>15) 各自の関心事について小発表②、まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説の諸問題						
授業の概要	中島京子の『小さいうち』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家である。前期に引き続き、中島京子を視座として、現代小説における諸問題を考える。						
到達目標	現代小説の実態を把握して現代の日本語や文化風俗への認識を深化できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本の家族制度 第3回 昭和初期 第4回 回想録 第5回 女中の存在 第6回 結婚 第7回 戦争の影 第8回 国際化の問題 第9回 婚活小説 第10回 就活小説 第11回 現代日本語 第12回 現代小説の問題 第13回 直木三十五賞 第14回 出版文化 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の文化風俗や現代日本語について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	中島京子『小さいうち』文春文庫 ISBN 978-4-16-784901-6						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。</p> <p>第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 1</p> <p>第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 2</p> <p>第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 3</p> <p>第4回 用例採取の方法 1</p> <p>第5回 用例採取の方法 2</p> <p>第6回 各自のテーマの発表と質疑応答 1</p> <p>第7回 各自のテーマの発表と質疑応答 2</p> <p>第8回 各自のテーマの発表と質疑応答 3</p> <p>第9回 各自のテーマの発表と質疑応答 4</p> <p>第10回 各自のテーマの発表と質疑応答 5</p> <p>第11回 各自のテーマの発表と質疑応答 6</p> <p>第12回 各自のテーマの発表と質疑応答 7</p> <p>第13回 各自のテーマの発表と質疑応答 8</p> <p>第14回 各自のテーマの発表と質疑応答 9</p> <p>第15回 第2演習のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があつた問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）発表（20%）レポート（30%）						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今集遠鏡』を教材とする通時的対照日本語研究。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義および演習。						
到達目標	<p>古典の読解力を高める。          古典に関する文献學的知識を身に付ける。          文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。          學説が必ずしも定めてゐないことを知る。          卒業研究の種を見附ける。</p>						
授業計画	<p>01: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (1)          02: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (2)          03: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (3)          04: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (4)          05: こゝまでの問題點の反省          06: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (5)          07: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (6)          08: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (7)          09: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (8)          10: こゝまでの問題點の反省          11: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (9)          12: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (10)          13: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (11)          14: 発表擔當者を中心とする講讀演習 (12)          15: 總括</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	<p>発表: 40點          質疑應答: 20點          學期末報告書: 40點</p> <p>特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0點とする。</p>						
教科書	今西 祐一郎 (校注)『古今集遠鏡1』(東洋文庫770)、平凡社						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	自分のことばを分析する						
授業の概要	実際にゼミ生の会話を録音したものを文字に起こし、それを資料として分析していく。時間が限られているとはいえ、音声を伴った談話資料には、音声事象から形態・統語事象、談話全体に及ぶ事象まで、研究・分析すべき素材が詰まっている。また、方言学・社会言語学的観点からの切り口もあるだろう。後期は、前期に作った資料を用いて、自分の好きなテーマで好きな角度から分析を試みてもらいたい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心をもとに、適切な先行研究を探して参照することができるようになる。</li> <li>・目的に応じた的確な分析をすることができるようになる。</li> <li>・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 先行研究の探し方・分析の方法 第3回 発表① 第4回 発表② 第5回 発表③ 第6回 発表④ 第7回 発表⑤ 第8回 発表⑥ 第9回 発表⑦ 第10回 発表⑧ 第11回 発表⑨ 第12回 発表⑩ 第13回 発表⑪ 第14回 発表⑫ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題とした発表資料作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（質疑応答含む）40%、発表40%、レポート20%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画							
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、日本の美術の展開（明治～現代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) 明治時代④ 2) 明治時代⑤ 3) 明治時代⑥ 4) 大正時代① 5) 大正時代② 6) 大正時代③ 7) 昭和初期① 8) 昭和初期② 9) 戦中・戦後① 10) 戦後② 11) 現代 12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて① 13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて② 14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解し、自分自身の言葉で論じることができる。その際、社会的、文化的背景についても論じることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス、日本書道史について</li> <li>2) 漢字の伝来以前と漢字の受容</li> <li>3) 奈良時代①（中国の書）</li> <li>4) 奈良時代②（天平文化・万葉仮名）</li> <li>5) 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺）</li> <li>6) 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺）</li> <li>7) 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成）</li> <li>8) 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙）</li> <li>9) 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経）</li> <li>10) 室町時代（墨跡）</li> <li>11) 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺）</li> <li>12) 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書）</li> <li>13) 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論）</li> <li>14) 昭和初期・戦後現代</li> <li>15) 今日の書の展望（ゲストスピーカーによる講義）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題・レポート40% テスト40%						
教科書	『決定版 日本書道史』名児耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。						
参考書	『書学挙要－書の歴史と文化－』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な作品を生み出して来た。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人歌集』・『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』・『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について理解しやすいように、複製を提示したり、パソコンやDVDの画像をスクリーンに映したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 『平家納経』などの装飾経 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や装束 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントも併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>平安時代の貴族文化についての知識を身に付ける。</p> <p>日本文化の本質について理解する。</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>興味を持った事柄について、自身でも深め、探究する。</p> <p>プリントに引用する古典文学が読解できるよう復習する。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(90%)と平常点(10%)						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶC						
担当教員	三木 麻子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学における旅						
授業の概要	古代人にとって旅とはどのようなものであったか。交通手段ひとつをとってもさまざまな困難がつきまとう時代に、人々はなぜ、旅に出たのか。目的や意義を考えつつ、旅の様相を読み解く。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世の旅の様相を理解し、その意義について述べることができる。						
授業計画	第1回 万葉人の旅 第2回 菅原道真・大宰府への左遷の旅 第3回 『伊勢物語』における「東下り」 第4回 『土佐日記』の船旅 第5回 『更級日記』の旅（任国からの帰郷） 第6回 王朝人の寺社参詣の旅－初瀬詣－ 第7回 能因・西行と歌枕 第8回 平家の都落ちと『平家物語』 第9回 『うたた寝』と『十六夜日記』の旅 第10回 『とはすがたり』－中世の紀行文－ 第11回 能における旅 第12回 芭蕉の『奥の細道』の旅 第13回 浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回 女の旅日記『東路日記』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付するプリントの作品例が理解できるよう、予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（70%）、小レポート（20%）、平常点（10%）						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に提示する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化ういまなび						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、文化の何たるかを様々な視点から検討することで、今、我々が生きていることの意味を問い直す。						
到達目標	日本とその文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化とは 第3回 日本の範囲 第4回 年間行事 第5回 民間暦 第6回 中央と地方の問題 第7回 西日本の文化 第8回 東日本の文化 第9回 北日本と南日本 第10回 食文化 第11回 出版文化 第12回 観光と文化 第13回 文化的営み 第14回 日本文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	三浦しをん『ふむふむ—おしえて、お仕事！』新潮文庫 ISBN：978-4-10-116763-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学の歴史						
授業の概要	日本文学の歴史を考える。「日本文学史A」では主として古典文学として扱われているものの歴史を追う。日本の成り立ち、先人の培ってきた遺産、現代の古典文学需要のありさまを多角的に学ぶ。						
到達目標	日本文学の歴史について考えることを通じて、現在に生きる古典文学への理解を深めることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本について 第3回 文学史を考えること 第4回 上代文学 第5回 口承文学 第6回 中古文学 第7回 貴族の文学 第8回 中世文学 第9回 武士の文学 第10回 動乱の文学 第11回 近世文学 第12回 町人の文学 第13回 幕末の文学 第14回 現在に生きる古典・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	視野を広く持ち、古典文学作品を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	児玉幸多編『日本史年表・地図』吉川弘文館 ISBN 9784642095365						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	文法の基礎知識／文法・敬語の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の形態論および統語論。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語の構造を捉へて、「文法」といふ言葉に対する漠然としたイメージが具體化できるやうに成る。 日本語の敬語の仕組みを知り、運用できるように成る。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 名詞の構造 03: 動詞の構造 04: イ形容詞とナ形容詞 05: 語、句、節 06: 語および句の構成要素 07: 節の構成要素 08: 文の階層構造 09: 文の階層構造と時制接尾辭の意味の関係 10: 屈折語、膠着語、孤立語の差異 11: 尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い 12: 敬語におけるウチとソト 13: 視点と授受表現 14: 全體のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40% 試験: 60% 出席點は無い。						
教科書	南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店 (第11版、1998年)						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 風間 伸次郎 (1992) 「接尾型言語の動詞複合体について: 日本語を中心として」、 宮岡伯人 (編) 『北の言語: 類型と歴史』、pp. 241-60、三省堂 菊地 康人 (1994) 『敬語』、角川書店 [文庫版: 講談社学術文庫1268、講談社、1997年] 清瀬 義三郎則府 (1971) 「連結子音と連結母音と—日本語動詞無活用論—」、 『国語学』86、pp. 42-56、国語学会 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店 服部 四郎 (1960) 『言語学の方法』、岩波書店 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを効果的に発表する方法を学ぶ。						
授業の概要	書籍やデータベースで調べたことをまとめ、それらを、人前で、適切・効果的にプレゼンテーションできるよう、その技法の基礎を学ぶ。 具体的には、以下のような内容で授業を展開する。 ①日本語や日本文化について、書籍や資料を使って、調査、探究する。 ②調査・探究したことを文章化したり、スライドにまとめたりして、資料を作成する。 ③プリントやスライドの資料を使って、学術的調査の結果を発表する。						
到達目標	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを適切な資料として作成できる。 作成した資料を使って効果的に発表し、わかりやすく聴衆に訴えかけることができる						
授業計画	第1回 授業概要と目標の説明 第2回 文献・資料の探し方、データベースの使い方についての説明 第3回 課題の決定と関連する情報の探索（書籍・資料の調査、探究） 第4回 word文書の作成の説明と演習 第5回 資料（word文書）の作成 第6回 word資料を使っての発表と質疑応答① 第7回 word資料を使っての発表と質疑応答② 第8回 word資料を使っての発表と質疑応答③ 第9回 発表についての討議と自己評価 第10回 パワーポイントのスライド作成の説明と演習 第11回 資料（パワーポイントのスライド）の作成 第12回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答① 第13回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表資料作成のための情報探索や書籍・資料の調査・探究						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容 90% 授業への取り組み・意欲（質疑応答などの発言） 10%						
教科書	必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりする。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを効果的に発表する方法を学ぶ。						
授業の概要	書籍やデータベースで調べたことをまとめ、それらを、人前で、適切・効果的にプレゼンテーションできるよう、その技法の基礎を学ぶ。 具体的には、以下のような内容で授業を展開する。 ①日本語や日本文化について、書籍や資料を使って、調査、探究する。 ②調査・探究したことを文章化したり、スライドにまとめたりして、資料を作成する。 ③プリントやスライドの資料を使って、学術的調査の結果を発表する。						
到達目標	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを適切な資料として作成できる。 作成した資料を使って効果的に発表し、わかりやすく聴衆に訴えかけることができる。						
授業計画	第1回 授業概要と目標の説明 第2回 文献・資料の探し方、データベースの使い方についての説明 第3回 課題の決定と関連する情報の探索（書籍・資料の調査、探究） 第4回 word文書の作成の説明と演習 第5回 資料（word文書）の作成 第6回 word資料を使っての発表と質疑応答① 第7回 word資料を使っての発表と質疑応答② 第8回 word資料を使っての発表と質疑応答③ 第9回 発表についての討議と自己評価 第10回 パワーポイントのスライド作成の説明と演習 第11回 資料（パワーポイントのスライド）の作成 第12回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答① 第13回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表資料作成のための情報探索や書籍・資料の調査・探究						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容 90% 授業への取り組み・意欲（質疑応答などの発言） 10%						
教科書	必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりする。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを効果的に発表する方法を学ぶ。						
授業の概要	書籍やデータベースで調べたことをまとめ、それらを、人前で、適切・効果的にプレゼンテーションできるよう、その技法の基礎を学ぶ。 具体的には、以下のような内容で授業を展開する。 ①日本語や日本文化について、書籍や資料を使って、調査、探究する。 ②調査・探究したことを文章化したり、スライドにまとめたりして、資料を作成する。 ③プリントやスライドの資料を使って、学術的調査の結果を発表する。						
到達目標	日本語や日本文化に関して、調査・探究したことを適切な資料として作成できる。 作成した資料を使って効果的に発表し、わかりやすく聴衆に訴えかけることができる						
授業計画	第1回 授業概要と目標の説明 第2回 文献・資料の探し方、データベースの使い方についての説明 第3回 課題の決定と関連する情報の探索（書籍・資料の調査、探究） 第4回 word文書の作成の説明と演習 第5回 資料（word文書）の作成 第6回 word資料を使っての発表と質疑応答① 第7回 word資料を使っての発表と質疑応答② 第8回 word資料を使っての発表と質疑応答③ 第9回 発表についての討議と自己評価 第10回 パワーポイントのスライド作成の説明と演習 第11回 資料（パワーポイントのスライド）の作成 第12回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答① 第13回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 パワーポイント資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表資料作成のための情報探索や書籍・資料の調査・探究						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容 90% 授業への取り組み・意欲（質疑応答などの発言） 10%						
教科書	必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりする。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論A						
担当教員	浮田 哲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー						
授業の概要	新聞、テレビ、雑誌など既存のメディアに加え、インターネットを介した様々な情報の流通ルートが発展し、現代社会は、以前にも増して膨大な情報に溢れている。そんな情報の洪水の中で、我々はどのようにメディアに接し、どう解説すればいいのか。そして、情報の発信者として気をつけなければならないことは何か。この授業では、そんなメディアとの付き合い方、いわゆるメディアリテラシーについて考察する。なお、テレビをはじめとする映像に関しては後期のマスメディア論Bで集中して扱う予定。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なったメディアの特性の違いについて説明することができる</li> <li>・新聞社によって、どのように論調が違うかを指摘できる</li> <li>・ニュースの情報源がどこかを指摘できる</li> <li>・ニュースに隠された“意図”を読み解くことができる</li> <li>・日常的にニュースに興味を持てるようになる</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明</li> <li>2. メディアとは何か？</li> <li>3. 我々はどんなメディアに触れてきたのか</li> <li>4. 新聞を読む① ニュースソースに注目する</li> <li>5. 新聞を読む② 各紙の紙面づくりと論調の違いについて検討する</li> <li>6. 新聞を読む③ 新聞の抱える問題</li> <li>7. 統計調査の「落とし穴」とは</li> <li>8. 雑誌を読む① スクープの構造</li> <li>9. 雑誌を読む② 企業ジャーナリズムとフリーランス</li> <li>10. 出版と表現① 「絶歌」(元少年Aの手記)には何が書いてあるのか</li> <li>11. 出版と表現② 「絶歌」出版をめぐる問題の検討</li> <li>12. インターネットを見る① 個人情報を守るか</li> <li>13. インターネットを見る② ネットにおけるジャーナリズムの可能性</li> <li>14. インターネットを見る③ ネット動画とのつきあい方</li> <li>15. まとめとレポート提出</li> </ol> <p>※講義の最初に一週間のニュースを振り返って解説し、メディアリテラシーの見地から検討します ※ニュースという「生モノ」を扱うので、ニュースによって内容が変わることもあります</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	この授業はメディアリテラシーをテーマにしていますが、その基本は日常生活の中で日々のニュースに積極的に接することです。スマホを介したニュースへの接触に留まらず、新聞を読み、テレビのニュースを視聴し、興味を持った事柄についてはネットでも検索する。生活の中でそういう“クセ”を身に着けるようにしてください。						
授業方法	講義中心。積極的に発言してください。 課題を提出し、そのフィードバックで講義を進めることもあります						
評価基準と評価方法	課題40% 期末レポート40% 講義態度20%						
教科書	特になし						
参考書	講義の時に適宜紹介します						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論B						
担当教員	浮田 哲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー（特に映像リテラシー）						
授業の概要	様々な情報の中でも、映像情報は見る人に対する影響力が極めて大きい。また、映像情報はともすれば「映っているもの＝真実」と捉えられがちで、歴史を振り返ってみても映像による情報操作が行われた例がいくつもある。この授業は前期の「マスメディア論A」を発展させ、特に映像に特化した形でメディアリテラシーについて考察する。 また、ネット上の動画についても検証する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像の成り立ちを考えながら番組を見ることができる</li> <li>・編集やナレーションによって、印象が変わる具体例を説明できる</li> <li>・一見自然な映像の“不自然さ”を指摘できる</li> <li>・いわゆる「ヤラセ」の是非について自分の意見を持てる</li> </ul>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明</li> <li>2. カット割りと制作者の意図</li> <li>3. ドキュメンタリーの手法と演出① 編集によるマジック</li> <li>4. ドキュメンタリーの手法と演出② 音効による臨場感と劇的効果</li> <li>5. ドキュメンタリーの手法と演出③ ナレーションによる誘導</li> <li>6. ドキュメンタリーの手法と演出④ 無いシーンは作る</li> <li>7. ドキュメンタリーの手法と演出⑤ 演出の範囲とは</li> <li>8. 教科書「テレビの嘘を見破る」から① どこまで見破れますか</li> <li>9. 教科書「テレビの嘘を見破る」から② ドキュメンタリーの歴史</li> <li>10. 教科書「テレビの嘘を見破る」から③ 「戦ふ兵隊」を巡る問題</li> <li>11. 教科書「テレビの嘘を見破る」から④ 再現と演出</li> <li>12. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑤ NHK「ムスタン」を巡る問題</li> <li>13. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑥ 制作者に求められるもの</li> <li>14. インターネットの動画サイトの付き合い方</li> <li>15. まとめとレポート提出</li> </ol> <p>※前半は私がかつて演出した「情熱大陸」などを視聴しつつ、映像の基本的な成り立ちを学びます ※後半は教科書を基に、さらに考察を深めます ※メディアを扱う科目なので、時々ニュースによって内容は適宜変更することがあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では映像を扱います。映画やテレビ、ネット動画でも構わないので、気に入った映像作品はしっかりと見るように心がけて下さい。						
授業方法	講義が中心。実際の映像を見ることもあります。 課題を提出することもあります。						
評価基準と評価方法	課題40% 期末レポート40% 受講態度20%						
教科書	「テレビの嘘を見破る」今野勉 新潮新書 ISBN-10: 4106100886 ISBN-13: 978-4106100888						
参考書	講義中に適宜紹介します。						